



Title	2006年度年報
Author(s)	
Citation	多文化社会と留学生交流：大阪大学留学生センター研究論集. 2007, 11, p. 101-172
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50670
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

*Annual
Report
2006*

2006年度 年報

大阪大学留学生センター
International Student Center, Osaka University

大阪大学留学生センター
2006年度年報

目 次

I. 現況	103
II. 留学生日本語プログラム	106
III. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	114
IV. 短期留学特別プログラム	115
V. 日本語・日本文化研修プログラム	119
VI. 学生交流の推進	121
VII. 学生支援	125
VIII. その他の活動	132
IX. 教員個人データ	139
資料	161

I. 現況

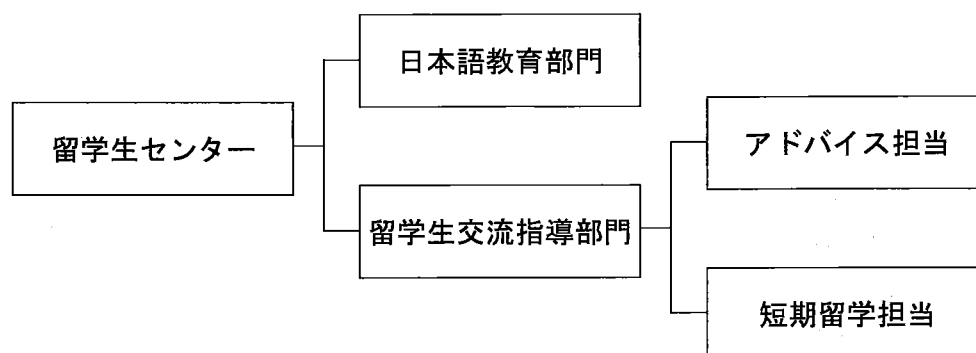
1. 運営形態

留学生センターはその最高意思決定機関として留学生センター教授会を置いている。留学生センター教授会は、留学生センター教員11名、及び各研究科から選ばれた教授または助教授15名、計26名の本学教員で構成されており、本教授会において留学生センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

留学生センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、留学生センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、留学生センター教員連絡調整会議が毎月1回開催されている。この会議を通して、センターの運営や各種事業や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

2. 組織

留学生センターでは、日本語教育部門と留学生交流指導部門の2つの部門を設置して、常に連携をとりながら、業務の運営にあたっている。日本語教育部門は主として、外国人留学生に対する日本語教育に関する業務を担当している。留学生交流指導部門は、さらにアドバイス担当と短期留学担当に分かれ、前者は留学生に対する修学・生活上の指導助言及び海外留学を希望する学生に対する修学・生活上の指導助言を、そして後者は短期留学特別プログラムのコーディネーション業務全般及びその他の短期留学生のオリエンテーション等をそれぞれ担当している。



留学生センター組織図

3. 教員

※ 2006 年 4 月 1 日現在

センター長		古城 紀雄（工学博士）
留学生交流指導部門		
アドバイス担当	教授	古城 紀雄（工学博士）
	助教授	有川 友子（Ph.D）
短期留学担当	教授	北浜 榮子（理学博士）
	助教授	近藤 佐知彦（Ph.D）
日本語教育部門	教授・副センター長	三牧 陽子（文学修士）
	教授	西口 光一（教育学修士）
		村岡 貴子（文学修士）
	助教授	大谷 晋也（言語文化学修士）
		難波 康治（教育学修士）
		西村 謙一（法学修士）
		義永 美央子（言語文化学博士）
兼任教員	留学生受入れ専門教育教員	鄭 聖汝（講師、文学研究科）
		山本 ベバリー・アン（講師、人間科学研究科）
		瀬戸山 晃一（講師、法学研究科）
		西垣 葵（講師、経済学研究科）
		菊池 和徳（講師、理学研究科）
		黒田 千晴（講師、工学研究科）
		芦沢 真五（講師、工学研究科）
		国吉 ニルソン（講師、工学研究科）
		惣田 訓（講師、工学研究科）
		熊谷 悦生（講師、基礎工学研究科）
生活相談員	福本 恵子	
	松岡 由起	
カウンセラー	三木 善彦	
事務補佐員	富野 香宝里	
	坂東 恭子	
非常勤講師	岡崎 洋三、東保 登紀代、林 洋子、米田 由喜代、山崎 深雪、 埋橋 淑子、内藤 裕美、福良 直子、スミス 朋子、ソーヤー りえこ、 安田 正枝、嶋津 百代、丸山 樹里、藤澤 好恵	
謝金講師	新庄 あいみ、布尾 勝一郎、八木 真奈美、齊藤 美穂、渡部 留美、 喜多 茜、池田 淑子	

4. 本年度の動き

本年 4 月より留学生センター古城紀雄教授がセンター長に就任した。副センター長には三牧陽子教授が就いた。また、昨年度末をもって退職した吉村裕美講師の後任に、義永美央子氏が助教授として着任した。

5. 国際交流推進への協力

留学生センターは留学生のみを対象としている部局ではなく、「地域に生き、世界に伸びる」をモットーとする大阪大学で、研究者やその家族をも視野に入れている。また地域コミュニティを外の世界につなぐセンターとしての役割を果たし、広い意味での「国際化」の最前線を担っている部局である。そしてその職務は大きく分けて(1)大学の国際化施策決定プロセスへの参画、(2)留学生はもちろん学内外関係者全般を対象としたケア、(3)日本人学生の国際化推進、(4)地域社会国際化への貢献、そして(5)学内で国際化を担う各部署を統合するコーディネーションという活動に集約される。特に(1)については、国際交流推進本部や国際交流委員会からそれらの下に設置される様々なWGへの参画、(2)についてはIRISや「いちよう日本語」といったユニークな活動、(3)はBSP等の活動、(4)(5)については交流指導部門がコミットするフロントスタッフミーティングや、留学生センター教員が国際企画室との協力の下で実質運営するコミュニティサイト「Global Campus Net Osaka」などの活動が挙げられる。

Ⅱ. 留学生日本語プログラム

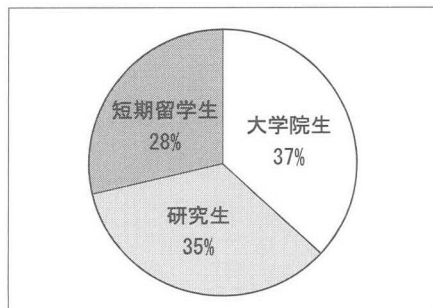
「留学生日本語プログラム」は、学内の留学生の多様な日本語学習ニーズに的確にかつきめ細かく対応するために開講されているプログラムである。集中度からは「集中コース（日本語研修コース）」と「選択コース」に、また、専門との関連からは「一般日本語」科目と「専門日本語」科目に、その他専門分野（文系か理系か）や漢字圏出身か否か等、様々な観点から科目を編成し、それらを組み合わせて、各留学生が必要なコマ数を履修できるよう工夫されている。日本語レベルは入門（レベル 100）から超上級（レベル 550）までの 6 レベルが設定され、学期当初に実施されるプレースメントテストおよび履修登録によって履修者を決定している。

春学期および秋学期の時間割と履修登録の状況については、年報末にある資料 1、資料 2 に示した。

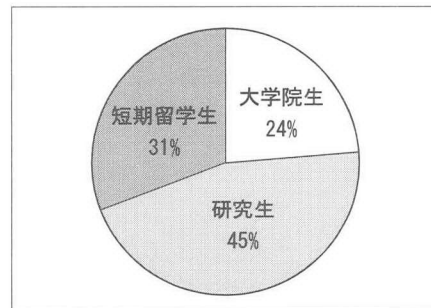
○ **プログラム**：留学生が各自のニーズや日本語学習に割ける時間等を勘案してコースを設定できるように工夫を凝らしたプログラム編成となっている。「留学生日本語プログラム履修ガイド 2006」を発行し、プログラムの概要、科目の説明や配置、シラバス、手続き等必要な情報を示し、配布するとともにウェブでも閲覧できるようにしている。巻末に、時間割（資料 1）、受講登録者数一覧（資料 2）、及び授業アンケート（資料 4）を資料として掲載した。

○ **開講コマ数**：春学期 89 コマ、秋学期 88 コマ、計 177 コマ。（日本語研修コース専用コマ計 58 コマを含む）

○ **履修登録者数**：実数は、春学期 165 名、秋学期 168 名、計 333 名であった。身分別内訳は、下図の通り。



2006 年度春学期履修者身分別内訳



2006 年度秋学期履修者身分別内訳

部局別では、工学研究科を筆頭に、全 14 研究科および 3 研究所 3 センターと学内から幅広く利用されていることがわかる。詳細は年報末の資料 2 を参照いただきたい。

○ **授業担当者**：専任教員 9 名、非常勤講師 14 名、謝金講師 10 名。

「漢字と語彙」等の一部科目について、謝金を活用した講師による科目を開講することによって、学習希望者のニーズに対応し、また、豊中キャンパスにおいても日本語が学習できる体制を整えている。

○ **英語補講**

上記日本語科目のほかに、日本の大学では英語の文献を購読する際にも日本語で内容についての報告や討議をすることが多いため、英文和訳を中心とした英語補講を各学期吹田と豊中両キャンパスで 1 コマずつ、計 4 コマ開講した。

1. 日本語研修コース

日本語研修コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。なお、18年度秋学期には、日本語・日本文化研修生1名とOUSSEP-AJLs2名をCクラス（下記参照）に配置し、他の学生と同様に教育を行った。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、ABCの3クラスに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期中2回発表会を実施している。1回は、日本語中間発表会で「私のこと・私の国」について、もう1回は、修了発表会で、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。中上級レベルの日本語能力を有するBCクラスの学生には修了レポートも課している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、各クラスとも、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) Aクラス

① 概要

Aクラスは、コース開始時に日本語の学習経験がまったくない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。中には母国等で多少学習した者も含まれる場合があるが、そのほとんどは、カタカナやひらがながかろうじて読め、挨拶程度の日本語が使えるレベルである。授業時間数は1週間当たり18コマで、うち14コマはAクラス専用の授業を行い、4コマの漢字クラスのみ、他の留学生の受講を認めている。Aクラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第24期・第25期日本語研修コースAクラス時間割（平成18年度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20	Aクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動7 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動9 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動12 JI100
2時間目 10:30-12:00	Aクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動8 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動10 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動13 JI100
12:00~13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	Aクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動6 JI100	研究室 訪問	Aクラス日本語： コミュニケーション行動11 JI100	Aクラス日本語： コミュニケーション行動14 JI100
4時間目 14:40-16:10	漢字と語彙 JK101-1	漢字と語彙 JK101-2		漢字と語彙 JK101-3	漢字と語彙 JK101-4

(2) Bクラス

① 概要

Bクラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は1週間当たり16コマで、10コマのBクラス専用授業と6コマの技能別専門日本語授業（選択必修科目）で構成されている。Bクラス日本語（コミュニケーション行動）（JI200）は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。学生は、漢字系および非漢字系の2レベルに分かれて漢字・語彙クラスおよび読解クラスを受講する（時間割参照）。

② 時間割

第24期・第25期日本語研修コースBクラス時間割（平成18年度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20	Bクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動7 JI200	
2時間目 10:30-12:00	Bクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動6 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動8 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動10 JI200
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	専門日本語 プレゼンテーション 基礎 JP200-1	専門読解基礎 (非漢字系) JR201-1 (漢字系) JR202-1	研究室 訪問	Bクラス日本語： コミュニケーション行動9 JI200	専門読解基礎 (非漢字系) JR201-2 (漢字系) JR202-2
4時間目 14:40-16:10	専門日本語 プレゼンテーション 基礎 JP200-2	漢字と語彙 (非漢字系) JK201-1 漢字と語彙 (漢字系) JK252-1			漢字と語彙 (非漢字系) JK201-2 漢字と語彙 (漢字系) JK252-2

(3) Cクラス

① 概要

Cクラスは、日本語を1～2年、約200～300時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は1週間当たり15コマで、5コマのCクラス日本語授業と10コマの技能別専門日本語授業（選択必修科目）で構成されている。Cクラス日本語「コミュニケーション行動」（JI300/400）はトピックベースの授業で、新聞等の生教材を資料にして読解、聴解、ディスカッションを行い、また語彙や文法を学習する。学生は、日本語能力に応じて2レベルに、専門に応じて文系／理系に分かれて専門日本語授業を受講する（時間割参照）。

② 時間割

春学期、秋学期とも、Cクラス日本語はトピック・ユニットである。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、現代日本の政治と経済、文化の歴史・社会の歴史である。

第24期・第25期日本語研修コースC クラス時間割（平成18年度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20	Cクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI300/400	Cクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI300/400	Cクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI300/400	専門会話 JC300/400	専門日本語プレゼン テーション（文系） JP303/403-1 専門日本語プレゼン テーション（理系） JP304/404-1
2 時間目 10:30-12:00	Cクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI300/400	専門日本語 文法・読解 JG300/400	Cクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI300/400	専門会話 JC300/400	専門日本語プレゼン テーション（文系） JP303/403-2 専門日本語プレゼン テーション（理系） JP304/404-2
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	専門日本語 作文 JW300 専門作文 (論文を書く) JW400/500	専門読解 ワークショップ (文系) JR303/403	研究室 訪問		専門読解 ワークショップ (理系) JR304/404
4 時間目 14:40-16:10	専門日本語 作文 JW300 専門作文 (論文を書く) JW400/500	漢字と語彙 (漢字系) JR252-1			漢字と語彙 (漢字系) JR252-2

○ コーディネータ

村岡貴子（全体・Bクラス）、大谷晋也（Aクラス）、西村謙一（Cクラス）

○ 学生数と身分別内訳

クラス別人数

	Aクラス	Bクラス	Cクラス	計
春学期	11	8	7	26
秋学期	15	6	11	32
計	26	14	18	58

身分別人数

	大使館推薦	教員研修	学内応募	計
春学期	16	0	10	26
秋学期	0	14	18	32
計	16	14	28	58

日本語日本文化研修生 1 名、OUSSEP-AJLs 2 名を除く

大使館推薦クラス別内訳

	Aクラス	Bクラス	Cクラス	計
春学期	8	4	4	16
秋学期	0	0	0	0
計	8	4	4	16

教員研修クラス別内訳

	Aクラス	Bクラス	Cクラス	計
春学期	0	0	0	0
秋学期	10	2	2	14
計	10	2	2	14

学内応募クラス別内訳

	Aクラス	Bクラス	Cクラス	計
春学期	3	4	3	10
秋学期	5	4	9	18
計	8	8	12	28

日本語日本文化研修生 1 名、OUSSEP-AJLs 2 名を除く

○ 学生出身国と配置（進学）先一覧

研修生の国籍

国名	春学期	秋学期	計
イラク	0	1	1
イラン	1	0	1
インド	0	1	1
インドネシア	3	3	6
エジプト	1	0	1
オーストラリア	1	0	1
キルギス	1	0	1
グアテマラ	1	0	1
ケニア	0	1	1
コロンビア	1	0	1
コンゴ	1	0	1
ジンバブエ	1	0	1
セントルシア	1	0	1
タイ	2	1	3
チリ	0	1	1
トルコ	2	0	2
トンガ	0	1	1
パナマ	1	0	1
ハンガリー	1	0	1
バングラデシュ	0	2	2
フィリピン	0	3	3
ブラジル	0	1	1
ベトナム	2	2	4
ベラルーシ	1	0	1
ペルー	0	1	1
ホンジュラス	1	1	2
マレーシア	1	0	1
ミャンマー	0	1	1
韓国	2	2	4
中国	1	7	8
計	26	29	55

日本語日本文化研修生 1 名、OUSSEP-AJLs
2 名を除く

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	春学期	秋学期	計
人間科学研究科	2	1	3
法学研究科	0	1	1
経済学研究科	3	1	4
医学系研究科	3	2	5
歯学研究科	0	1	1
薬学研究科	1	0	1
理学研究科	1	2	3
基礎工学研究科	5	0	5
工学研究科	8	3	11
国際公共政策研究科	2	2	4
情報科学研究科	1	1	2
微生物病研究所	0	1	1
大阪教育大学	0	11	11
奈良教育大学	0	1	1
和歌山大学	0	2	2
計	26	29	55

日本語日本文化研修生 1 名、OUSSEP-AJLs 2 名を除く

2. 選択コース

選択コースは、プレースメントテストの結果によって配置されたレベルの科目群の中から、留学生が各自のニーズと日本語受講に割ける時間等を勘案して、必要な科目数だけ自由に選択できるように設定されている。吹田・豊中両キャンパスで開講。「漢字と語彙」には漢字圏/非漢字圏出身者用、「口頭発表」には文系/理系用がそれぞれ設けられ、より効果的に学習できるよう工夫されている。開講科目の詳細については年報末の資料1の時間割を参照。

なお、プレースメントテストの結果および履修許可者の発表、レベル別の履修希望届け出用紙の配布には、掲示や配布と共に Web によっても行った。当プログラムの周知に関しては、Web の活用および「履修ガイド」の発行に加え、新たな広報手段として、学期毎に履修手続きと時間割を日英両言語で記載したパンフレットを発行した。

○ 科目の種類とコマ数（年間計 112 コマ）

（＊の科目を履修した短期留学生は単位を取得することができる。）

(1) 一般日本語科目：計 58 コマ

「総合日本語JA＊」（週 3 コマ）計 24 コマ、「総合日本語 JB」（週 2 コマ）計 16 コマ、「漢字と語彙」計 18 コマ。

(2) 専門日本語科目：計 54 コマ

「専門読解 JR」15 コマ、「専門日本語文法・読解 JG」7 コマ、「専門作文 JW」10 コマ、「専門会話 JC」6 コマ、「口頭発表 JP」14 コマ、「専門日本語総合（理系）JT」2 コマ

(3) その他：共通教育科目＊（レベル 500 あるいは 550 に相当）も、一般留学生の希望者には履修可能としている。

○ 履修までの手続き

(1) プレースメントテスト実施

今年度は、下記の通り、毎学期当初に 4 回（うち 1 回は遅れて来日した留学生のための追加）計 8 回 プレースメントテストを実施した。履修希望者は都合の良い 1 回を選んで全員受験することとした。

- ・ 春学期：4 月 5 日、6 日、10 日、追加 4 月 20 日
- ・ 秋学期：9 月 28 日、10 月 4 日、10 日、追加 10 月 18 日

(2) プレースメントテスト結果発表

- ・ 春学期：4 月 12 日
- ・ 秋学期：10 月 12 日

(3) 授業開始：発表されたレベルの科目群の中から選択して授業に出席する。

- ・ 春学期：4 月 13 日
- ・ 秋学期：10 月 13 日

(4) 履修登録

- ・ 春学期：4 月 24～26 日
- ・ 秋学期：10 月 20～24 日

(5) 履修許可者の発表

クラスサイズおよび科目毎に設定された身分別優先順位を勘案して履修許可者を科目毎に発表した。

- ・ 春学期：4 月 28 日
- ・ 秋学期：10 月 26 日

3. 共通教育

全学共通教育科目として、第3外国語（日本語、多文化コミュニケーション）、選択外国語（日本語）、および基礎セミナーを、計22コマ（実質16コマ）提供した。また、2名が前年度に引き続き、大学教育実践センター兼任教員として共通教育の実施運営に携わった。

○ 提供科目とコマ数

(1) 第3外国語：留学生が第2外国語（初習外国語）に替えて履修できる科目。

「日本語」（1単位）：大学の授業で用いる日本語運用能力の養成を目的とする。各学期4コマ計8コマ提供。

「多文化コミュニケーション」（2単位）：留学生と基礎セミナーとして履修する一般学生とが協同で課題を追求する活動を通じ、多文化社会での行動能力の向上を目指す。各学期3コマ計6コマ提供。

(2) 選択外国語：人間科学部および文学部対象。計2コマ提供。

(3) 基礎セミナー「多文化コミュニケーションセミナー」：各学期3コマ計6コマ提供。留学生対象の「多文化コミュニケーション」と合同で開講。

○ 共通教育提供科目・担当者一覧

科目名のⅠは1回生、Ⅱは2回生対象を表す。

Ⅰ, Ⅲセメスター			Ⅱ, Ⅳセメスター		
(1) 第3外国語					
授業科目名	担当者	配当学部	授業科目名	担当者	配当学部
日本語Ⅰ-1/Ⅱ-1	大谷 晋也	全学部	日本語Ⅰ-4/Ⅱ-4	大谷 晋也	全学部
日本語Ⅰ-2/Ⅱ-2	三牧 陽子	全学部	日本語Ⅰ-5/Ⅱ-5	義永未央子	全学部
日本語Ⅰ-3/Ⅱ-3	北浜 榮子	全学部	日本語Ⅰ-6/Ⅱ-6	北浜 榮子	全学部
日本語Ⅰ-7/Ⅱ-7	難波 康治	全学部	日本語Ⅰ-8/Ⅱ-8	難波 康治	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-1/Ⅱ-1	義永未央子	全学部	多文化コミュニケーションⅠ-4/Ⅱ-4	難波 康治	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-2/Ⅱ-2	有川 友子	全学部	多文化コミュニケーションⅠ-5/Ⅱ-5	義永未央子	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-3/Ⅱ-3	北浜 榮子	全学部	多文化コミュニケーションⅠ-6/Ⅱ-6	有川 友子	全学部
(2) 選択外国語（日本語）					
日本語595A	難波 康治	人・文	日本語595B	難波 康治	人・文
(3) 基礎セミナー					
多文化コミュニケーションセミナーA -global communicationを考える1-	義永未央子	全学部	多文化コミュニケーションセミナーD -global communicationを考える2-	難波 康治	全学部
多文化コミュニケーションセミナーB -異文化理解へのアプローチ1-	有川 友子	全学部	多文化コミュニケーションセミナーE -global communicationを考える3-	義永未央子	全学部
多文化コミュニケーションセミナーC -サイエンス・コミュニケーション-	北浜 榮子	全学部	多文化コミュニケーションセミナーF -異文化理解へのアプローチ2-	有川 友子	全学部

○ 共通教育賞受賞

基礎セミナー「多文化コミュニケーション I-3」の授業の実践に対し、北浜榮子教授が平成 18 年度第 1 学期「大阪大学共通教育賞」（カテゴリー 1：優れた授業を実践した教員）を受賞した。受賞理由は次の通り。

今後の科学技術と社会の最適な関係を構築するための課題や方策を学習する授業を行った。7 カ国の学生を対象に、グループ討論・ディベート・双方向的な対話を重視した授業方法を取り入れ、「市民や社会とのコミュニケーション能力の醸成」「科学リテラシーの養成」が達成されたと評価された授業を実践した。

○ 大学教育実践センター兼任教員

- 近藤佐知彦助教授：教育実践研究部教育交流部門
- 三牧陽子教授：共通教育実践部国際教育部門

Ⅲ. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOS プログラム）とは、日本の大学の理工系学部には韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成 12 年度より受け入れを開始した。本プログラムでは、学部入学前に 1 年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されている KOSMOS プログラムは、日本語教育と専門教科教育の 2 つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が、日本語科目については留学生センター日本語教育部門教員がコーディネータとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週 8 コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している（時間割参照）。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、留学生センターの日本語教育部門および留学生交流指導部門の教員が連携し「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスを行っている。さらに、課外活動として地域の学校と連携して国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時間割

第 7 期 日韓共同理工系学部留学生対象予備教育 時間割（平成18年度）

	月曜日 (吹田)	火曜日 (豊中)	水曜日 (吹田)	木曜日 (豊中)	金曜日 (吹田)
1 時間目			理科系日本語	英語	
2 時間目	物理 1	専門基礎 日本語	理科系日本語	数学 2	物理 2
昼休み			ホームルーム		
3 時間目		専門基礎 日本語		日本事情・ 異文化適応	専門読解 ワークショップ (理系)
4 時間目	化学 1	数学 1		日本事情・ 異文化適応	専門基礎 日本語
5 時間目	化学 2				

2. 学生数と進学先

平成 18 年度は、5 名の学生を受け入れた。進学先は、工学部が 4 名、理学部が 1 名である。

IV. 短期留学特別プログラム

大阪大学短期留学特別プログラム（Osaka University Short-term Student Exchange Program：以下OUSSEP）は、本学の海外提携大学に在学中の学生を対象に、本学での学習および単位取得の機会を英語によって提供するために創設された留学生受け入れプログラムである。提携大学間における授業料の不徴収と単位の互換認定が柱となっている。1996年から2006年までの11年間に、22カ国（地域）52大学から、314名の交換留学生を受け入れてきた。大部分のOUSSEP学生は本プログラム創設時に導入された英語による「国際交流科目」授業を受講することによって単位を取得、一年間（2セメスター）を本学で過ごす。この国際交流科目受講は本学の学生も可能で単位が取得でき、卒業要件単位として認定されることもある。なお、2006年秋季からは新しいスキームが導入され、より柔軟な受け入れが可能となり、半年間の履修（Half-year OUSSEP）を学生2名、日本語を学ぶ学生（OUSSEP for Advanced Japanese Learners / OUSSEP-AJLs）の4名をあわせて受け入れている。

OUSSEPは全学プログラムであるため、国際交流科目授業については全部局が提供するが、協定校交換留学担当者や学内各部局授業担当者・自主研究担当者との連絡調整および教育カリキュラムの企画・実施は留学生交流指導部門に配属された短期留学担当の教員2名が担当する。さらにはOUSSEP学生のアカデミック・アドバイザーとしての役割も果たしている。なおOUSSEP-AJLsについては日本語部門教員の協力の下で運営されている。

1. 行事

OUSSEP および国際交流科目関係の行事（2006年4月から2007年3月まで）

月	行事内容
4月	国際交流科目春学期担当教員向けオリエンテーション(4/12)、春学期学生オリエンテーション(4/12)、国際交流科目春学期開始(4/13)、国際交流科目履修手続き期間
5月	大阪市環境事業局舞洲工場のフィールドトリップ(5/24、Technical Japanese、日本人学生も参加)
6月	トヨタ自動車のフィールドトリップ(6/28、Technical Japanese、日本人学生も参加)
7月	高野山研修1泊旅行(7/15-16)
8月	第10期終了式(8/11) 第10期生、随時帰国
9月	第11期生大阪到着、オリエンテーション、ホストファミリーとの「出会いの会」、サイバーメディアセンター説明会、図書館利用説明会、キャンパスツアー(9/25-29)、自主研究指導教員、国際交流科目秋学期担当教員向けオリエンテーション(9/29)
10月	国際交流科目秋学期開始(10/2)、第11期開講式(10/16)、自主研究指導教員と学生の面談(10/3-7)、日本語オリエンテーション(10/5)、My Country & My University 発表会(10/18)、吉備少年自然の家研修1泊旅行(10/24-25)
11月	
12月	冬休み(12/26-1/8)
1月	冬休み終了(1/8)
2月	国際交流科目秋学期終了(2/9)
3月	第11期（Half-year OUSSEP）終了式（3/1）

2. 2006 年春学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目リスト

2006 年春学期 学生

No	性別	応募時の学	在 籍 大 学	国 籍	大阪大学での所属部局
1	男	U3	ブダペスト工科・経済大学	ハンガリー	工学部
2	女	U2	モナシュ大学	イスラエル	文学部
3	女	U2	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン	医学部
4	男	U2	モナシュ大学	オーストラリア	基礎工学部
5	女	U4	オルデンブルグ大学	ドイツ	工学部
6	女	U3	チュラロンコン大学	タイ	法学部
7	男	U3	ウッジ工科大学	ポーランド	工学部
8	女	U4	ウェズリアン大学	アメリカ合衆国	文学部
9	男	U3	グローニンゲン大学	オランダ	工学部
10	女	U2	マギル大学	カナダ	経済学部
11	女	U3	南京大学	中国	経済学部
12	男	U1	マギル大学	カナダ	工学部
13	男	U2	コペンハーゲン大学	デンマーク	言語文化研究科
14	男	U3	釜山大学校	大韓民国	工学部
15	女	U4	ガジャマダ大学	インドネシア	工学部
16	女	U2	マックマスター大学	カナダ	経済学部
17	男	U3	延世大学校	大韓民国	医学部
18	男	U2	スタンダード・グルノーブル第三大学	フランス	文学部
19	女	U3	ノンラン大学	ベトナム	工学部
20	女	U4	オーボアカデミー大学	フィンランド	工学部
21	女	U3	デルフト工科大学	オランダ	文学部
22	女	U3	オーストラリア国立大学	大韓民国	経済学部
23	男	U3	ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	理学部
24	女	U3	チュラロンコン大学	タイ	法学部
25	男	U3	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学	ドイツ	基礎工学部

2006 年春学期 国際交流科目開講リスト

科目名	開講部局	主たる担当教員
西洋文学・語学の比較研究	A Comparative Introduction to Western Literature and Language	文学部 玉井 暲 教授
近代日本経済学	The Modern Japanese Economy	経済学部 佐々木 勝 助教授
身のまわりの化学	Chemistry and Human Life	理学部 村田 道雄 教授
我が国の保健医療制度の概要	Introduction to Health Service and Medical Care in Japan	医学部 的場 梁次 教授
物質化学入門	Introduction to Materials Chemistry	工学部 桑畑 進 教授
地球総合工学への招待 ー持続的発展と人と自然の共生ー	Introduction to Global Architecture -Nature & Human Activity and Sustainable Development-	工学部 山中 俊夫 助教授
異文化理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	留学生センター 有川 友子 助教授
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	留学生センター 近藤佐知彦 助教授
科学・技術の話題を理解するための テクニカル・コミュニケーション ー科学技術日本語Ⅱー	Technical Communication for Understanding Scientific and Technological Issues-Technical Japanese A: Part II-	留学生センター 北浜 榮子 教授
社会・文化の話題を理解するための テクニカル・コミュニケーション ー社会科学日本語Ⅱー	Technical Communication for Understanding Social and Cultural Issues -Technical Japanese B: Part II-	留学生センター 西村 謙一 助教授
日本語 JA200	Japanese JA200	留学生センター スミス朋子非常勤講師
日本語 JA300	Japanese JA300	留学生センター 嶋津 百代 非常勤講師
日本語 JA400	Japanese JA400	留学生センター 西口 光一 教授
日本語 JA500	Japanese JA500	留学生センター 三牧 陽子 教授

3. 2006 年秋学期 : OUSSEP 学生名簿と国際交流科目リスト

2006 年秋学期 学生

No	性別	応募時の学年	在 籍 大 学	国 籍	大阪大学での所属部局
1	女	U2	ウェズリアン大学	アメリカ合衆国	文学部
2	女	U3	ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ*	人間科学部
3	男	U3	ウッジ工科大学	ポーランド	工学部
4	女	U4	テキサス A&M 大学	アメリカ合衆国	人間科学部
5	女	M1	武漢大学	中国	理学部
6	女	U4	全南大学校	大韓民国	経済学部
7	男	U4	ストラスブール大学連合 (マルク・ブロック大学)	フランス	文学部
8	男	U4	グルノーブル大学連合 ((INP-Grenoble)	フランス	経済学部
9	男	M1	パドア大学	イタリア	工学部
10	男	U4	ガジャマダ大学	インドネシア	工学部
11	男	U3	ブダペスト工科・経済大学	ハンガリー	工学部
12	女	U3	南京大学	中国	文学部
13	男	U4	オーボアカデミー大学	フィンランド	基礎工学部
14	女	U3	ノンラム大学	ベトナム	工学部
15	女	U4	嶺南大学校法科大学	大韓民国	法学部
16	男	U3	釜山大学校	大韓民国	経済学部
17	男	U3	オーボアカデミー大学	フィンランド*	法学部
18	男	U3	西安交通大学	中国	工学部
19	男	U2	マックマスター大学	カナダ	文学部
20	男	U3	マックマスター大学	カナダ	文学部
21	男	U2	ワシントン大学	アメリカ合衆国	人間科学部
22	女	U3	ストラスブール大学連合 (マルク・ブロック大学)	フランス	文学部
23	女	U2	スウェーデン王立工科大学 (KTH)	スウェーデン	工学部
24	男	U3	オーボアカデミー大学	フィンランド*	文学部
25	男	U4	グローニンゲン大学	オランダ	経済学部
26	男	U3	ワシントン大学	アメリカ合衆国	文学部
27	男	U4	ヴェクショー大学	スウェーデン	人間科学部
28	女	U3	チュラロンコン大学	タイ	人間科学部
29	女	U4	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学	ドイツ	経済学部
30	女	U3	西安交通大学	中国	工学部
31	女	U3	南京大学	中国	文学部
32*	女	U2	モンゴル国立大学	モンゴル	文学部
33*	女	U3	慶尚大学校	大韓民国	基礎工学部
34*	男	U2	慶尚大学校	大韓民国	経済学部
35*	女	U4	極東国立総合大学	ロシア	言語文化研
36**	男	M1	デルフト工科大学	オランダ	工学部
37**	男	U2	香港科学技術大学	香港	基礎工学部

うち 32-35 (*で示した者) は日本語を主に学ぶ OUSSEP-AJLs の学生。36 および 37 (**で示した者) は 1 セメスターのみの履修をする。1-31 については一年間の履修を希望する。

2006 年秋学期 国際交流科目リスト

科目名	開講部局	主たる担当教員
歴史・習俗・交流 ーアジアと日本ー	History, Manners and Customs, and Interchange - Asia and Japan -	文学部 片山 剛 教授
日本の法・政治制度と法・政治文化	Japanese Legal / Political System and Culture	法学部 瀬戸山晃一 講師
マネジメント入門	Introduction to Management	経済学部 関口 倫紀 助教授
現代物理学の最前線	Current Topics in Modern Physics	理学部 細谷 裕 教授
薬学入門	Introduction to Pharmaceutical Sciences	薬学部 宇野 公之 教授
情報システム工学基礎論	Introduction to Information Systems Engineering	工学部 尾上 孝雄 教授
工学の基盤分野における日本の革新技術	Innovative Japanese Technologies in 3M-based Engineering	工学部 掛下 知行 教授
近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科 村上 スミス・アンドリュース 助教授
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	留学生センター 近藤佐知彦 助教授
最近の科学・技術の話題 ー科学技術日本語Ⅰー	Current Scientific and Engineering Topics -Technical Japanese A: Part I-	留学生センター 北浜 榮子 教授
最近の社会・文化の話題 ー社会科学日本語Ⅰー	Current Social and Cultural Topics -Technical Japanese B: Part I-	留学生センター 西村 謙一 助教授
日本語 JA100	Japanese JA100	留学生センター スミス朋子非常勤講師
日本語 JA200	Japanese JA200	留学生センター 嶋津百代 非常勤講師
日本語 JA300	Japanese JA300	留学生センター 西口 光一 教授
日本語 JA400	Japanese JA400	留学生センター 義永美央子 助教授

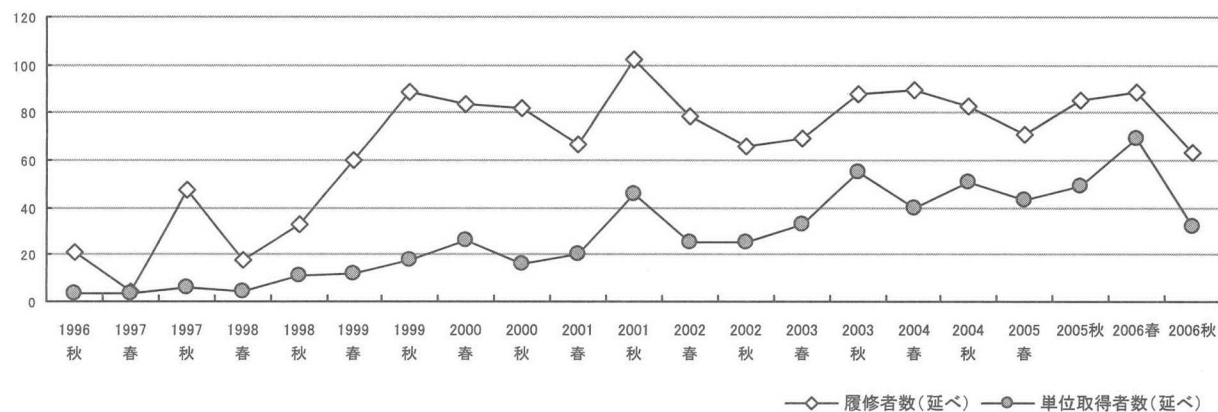
4. 国際交流科目履修者数と単位取得者数（2006 年春学期および 2006 年秋学期の OUSSEP 外学生）

部局別： OUSSEP 外学生の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	法	高司	経済	人科	国公	言文	理	医	歯	生命	薬	工	基工	情報	計	G/R
2006 春	11(8)	7(1)	0(0)	37(31)	6(3)	0(0)	0(0)	1(0)	6(5)	0(0)	0(0)	0(0)	6(4)	1(1)	1(1)	89(69)	0.76
2006 秋	5(2)	3(2)	0(0)	11(6)	21(9)	0(0)	1(1)	5(3)	1(1)	1(0)	0(0)	1(1)	3(1)	11(6)	0(0)	63(32)	0.51
2006春から 2006秋の合計	16 (10)	10 (3)	0 (0)	48 (37)	27 (12)	0 (0)	1 (1)	6 (3)	7 (6)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	9 (5)	12 (7)	1 (1)	181 (101)	0.56
1996秋から 2006秋の合計	141 (62)	89 (22)	3 (1)	251 (157)	176 (51)	3 (1)	2 (1)	168 (74)	77 (31)	2 (0)	5 (0)	21 (11)	306 (107)	127 (52)	7 (2)	1239 (486)	0.39

いずれも延べ数。（ ）内の数字は単位取得者数を表す。G/R は、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。

<参考> OUSSEP 外学生の国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移



V. 日本語・日本文化研修プログラム

大阪大学では、全学の協力体制の下に、本年度より日本語・日本文化研修プログラムを開始した。本プログラムは10月開始で翌年の8月までの1年間の研修プログラムである。本学の本プログラムは、研究中心大学院型大学の特色を生かして、秋学期は留学生センターにおいて集中的に日本語研修を受け、春学期には、日本事情科目の受講と併せて、各研修生が各々の専門に応じた教員のもとで専門的な研修を受けるという形になっている。受入れ定員は5名である。本プログラムは、留学生センターがコーディネーションを担当し、全学の協力の下に運営されている。

1. 研修生の概要

出身国	現所属大学	専門分野	専門研修担当教員の部局
大韓民国	仁済大学校	社会言語学	文学部
中国	四川外国語学院	社会言語学	文学部
スウェーデン	ルンド大学	日本語学	文学部
スウェーデン	ルンド大学	経営学	経済学部
ロシア	ロシア極東人文大学	日本語学	文学部

2. 秋学期集中日本語研修の概要

秋学期の集中日本語研修は、研修生の既習の日本語力に応じて配置がなされ、実施された。

日本語 400 レベルと判定された研修生 1名： 日本語研修コースCクラスに配置

※ 授業内容はⅡの1「日本語研修コース」を参照。

日本語 550 レベルと判定された研修生 4名： 以下の日本語科目を受講した

- (1) 専門日本語文法・読解
- (2) 日本語 595B
- (3) 日本語Ⅱ-4
- (4) 日本語Ⅱ-5
- (5) 日本語Ⅱ-6
- (6) 多文化コミュニケーションⅡ-4
- (7) 多文化コミュニケーションⅡ-6

3. 春学期の研修内容

(1) 日本事情科目

研修生は、日本事情科目として、以下の全学共通教育科目を受講した。

2007年 春学期 日本事情科目

科 目 名	授業コード	曜日時間	授業担当教員所属部局
現代社会を読み解く	135475	水Ⅱ	人間科学部
現代の差別を考える	135515	水Ⅲ	文学部
現代の差別を考える	135839	金 1	人間科学部
世界は今 ーサンフランシスコから	135861	金 I	大学教育実践センター
総合日本語	131317	火Ⅴ	留学生センター
専門日本語	131467	木Ⅴ	留学生センター

(2) 専門研究演習

研修生は各々の専門に応じて、専門研究演習として、以下の授業を受講した。

2007年 春学期 専門研究演習

科 目 名	授業コード	曜日時間	授業担当教員所属部局
社会言語学演習	004002	月Ⅱ	文学部
特殊講義(ベンチャー企業経営論)	030469	水Ⅴ	経済学部

(3) 日本語・日本文化演習

修了レポートの作成に向けて、研修生が順に研究の進捗状況を報告し討論し、また修了レポートの作成を指導する機会として、月曜日の4限に日本語・日本文化演習の授業が開設された。研修生は、専門研究演習で研究指導教員の下で修了レポートに向けた研究を進め、日本語・日本文化演習での討論や論文作成指導を通して、各自の修了レポートを書き上げた。この修了レポートは、本研修プログラムの修了要件の1つとなっている。

VI. 学生交流の推進

1. 短期留学生の支援

留学生センター短期留学担当は、従来、大阪大学短期留学特別プログラム（Osaka University Short-term Student Exchange Program：以下 OUSSEP）のコーディネーションを担当してきた。しかしここ数年は大学のさらなる国際化が求められる状況に鑑み、各部局に分散して受け容れられる交換留学生（部局分散学生）についての募集事務へのアドバイスや、募集に関する協定校との連絡、そして来学当初のケアも行っており、現在の仕事の範囲は OUSSEP に止まらず、全学交流協定校からの短期留学受け入れ業務全般に及んでいる。

2003 年度に当時の留学生委員会の委嘱を受け、ワーキングの一員として、全学交流協定校に配布するための交換留学応募用紙の作成に協力した事を手始めとして、それまで部局単位でバラバラに行われていた募集業務などについて、OUSSEP で培ったノウハウを活かしつつ、OUSSEP 担当者と学生交流推進課とが協力しながら、短期留学受け入れ事業を運営している。

○ コーディネーション

担当としての日常業務の中で、OUSSEP 担当教員が派遣や受け入れ可能学生数などの調整を行っている。また、来学希望学生の最初のコンタクト先として、留学生センター（OUSSEP 担当）が選ばれる傾向があり、コンタクトしてきた学生の在籍校と協力して、適切な部局へ誘導・紹介を日常的に行っている。また、留学生センター教員がコンタクトパーソンを務める全学交流協定は全協定中 協定である。

○ オリエンテーション

春夏それぞれのセメスターにおいて、新規来学学生に対してオリエンテーションを実施している。特に秋期においては、図書館およびサイバーメディアセンターにおけるオリエンテーションが含まれる。また、特に支障がない限り、部局間協定に基づく受け入れ交換留学生在がこれらのオリエンテーションに参加することもある。なお、新規来学学生のケアについては、地域のコミュニティ、留学生会、一般学生のサークル（BSP）などからの十全な協力を得て、早く本学の学習・研究環境にとけ込めるよう努めている。

2. 派遣留学の推進

留学生センター留学生交流指導部門では平成 18 年度も引き続き学生交流派遣推進にも積極的に取り組んだ。4 月 3 日の新入生向け外国語科目履修ガイダンスにおいて、海外留学パンフレットおよび国際交流科目のパンフレットを配布して、海外留学のオリエンテーションを行った。また、留学生センター吹田地区 IRIS（留学生交流情報室）および豊中分室において、パンフレット等による情報提供を継続するとともに、メールによる相談対応も行った。通常メールでの相談に対しては基本的に最低一度は面談を行い、相談内容によって継続的に対応を行った。

さらに、平成 18 年度も豊中キャンパス学生交流棟の 2 階の留学交流情報コーナーにて、学期期間中週 3 回のオフィスアワーを設け、留学相談への対応を行った。そのうち週 1 回は予約なしで対応し、残り 2 回

については事前のメールでの予約により対応を行った。表 1 に平成 18 年度までのメール及び面談の相談件数のデータを載せた。

また例年通り 6 月には、学生交流推進課とともに、海外留学オリエンテーションを吹田と豊中キャンパス両方において、2 日間実施し、交換留学はもちろん、その他の各種プログラムについての情報提供を行った。また海外留学の体験談や交換留学体験者や交換留学生とのフリートーキングの機会も設けた。オリエンテーションでは吹田・豊中あわせて 166 名の出席者があった。

国際交流委員会のもとに置かれた交換留学選考委員会において第一期の学内選考、第二期の学内選考を行い、内定を得た学生については、協定校への推薦を行った。表 2 に平成 18 年度に交換留学制度において内定を得た学生の内訳を載せた。

海外留学に関連して、協定校との連絡も行った。具体的には 6 月の海外留学オリエンテーション前には募集人数の確認を各協定校とメールで行い、また学内選考後には推薦人数その他についての連絡を関係する協定校とメールで行うとともに、必要に応じて電話での連絡調整も行った。

表1 海外留学相談データ
年度・月別合計（1998－2006）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談
1998	0	0	2	3	0	2	0	1	0	0	0	2	5	6
1999	4	7	10	5	20	5	17	6	5	0	14	0	17	2
2000	30	8	41	11	34	3	19	6	23	1	36	6	17	7
2001	38	13	10	0	20	3	10	1	27	0	24	3	14	2
2002	26	1	12	1	42	1	63	2	31	1	50	2	12	2
2003	1	1	2	3	30	3	39	2	24	4	65	5	13	3
2004	47	11	34	4	62	2	34	4	26	0	25	1	32	3
2005	50	12	36	16	34	10	26	7	84	7	40	5	31	5
2006	36	11	43	6	69	12	67	9	46	7	49	7	60	18
合計1	232	64	190	49	311	41	275	38	266	20	303	31	201	48
合計2	296		239		352		313		286		334		249	

11月		12月		1月		2月		3月		合計		合 計
メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	
3	3	0	1	2	1	0	0	0	0	12	19	31
4	1	10	2	11	2	9	2	10	5	131	37	168
26	5	20	2	13	1	6	0	10	7	275	57	332
26	0	21	0	29	0	26	0	6	0	251	22	273
9	1	7	0	10	0	0	0	1	0	263	11	274
8	1	6	0	15	0	2	0	4	0	209	22	231
54	3	37	2	12	2	14	1	7	1	384	34	418
29	7	66	11	40	6	60	4	8	0	504	90	594
26	2	45	10	57	6	50	9	29	3	577	100	677
185	23	212	28	189	18	167	16	75	16	2606	392	2998
208		240		207		183		91		2998		2998

注： このデータには 通常の留学対応件数を記す。個別の特別な事情による相談対応件数は含まない。
メールの件数は送信・受信総数の延べ数記す。

表2 大阪大学交換留学（派遣）内定状況
(2007 年 1 月－2008 年 3 月留学開始分)

(1)部局別

部局名		第Ⅰ期 応募人数	第Ⅰ期 内定人数	第Ⅱ期 応募人数	第Ⅱ期 内定人数	部局間協定 による派遣 内定人数
文学研究科		2	1+(1)	5	5	
文学部				3	2+(1)	
法学研究科		1	1			
法学部				3	(3)	
経済学部		2	1+(1)	4	1+(2)	2
人間科学研究科				2	2	
人間科学部		1	1	2	1+(1)	3
理学部		1	(1)			
工学研究科				1	1	1
基礎工学研究科				1	(1)	
基礎工学部				4	4	
情報科学研究科						1
総合計		7	4+(3)	25	16+(8)	7

()内は条件付き内定者数

(2)大学別

大学名(大学間協定校)	派遣可能数	第Ⅰ期 第一希望	第Ⅰ期 派遣決定	第Ⅱ期 第一希望	第Ⅱ期 内定先
チュラロンコン大学	5				
マヒドン大学	5				
延世大学校	2				1
全南大学校	5				
ソウル大学校	2			1	
釜山大学校	10				
慶尚大学校	5				
上海交通大学	5				
西安交通大学	3				
武漢大学	2				
南京大学	2				
ベトナム国立大学ハノイ校	5				
モンゴル国立大学	2				
オーストラリア国立大学	1	3	1	2	
モナシュ大学	5		1		1
ウェズリアンカレッジ(女子学生のみ)	2			1	1
カリフォルニア大学	0				
テキサス A&M 大学	2		1	4	2
ナザレスカレッジ ローチェスター校	1	1		2	1
ワシントン大学	2			7	3
マギル大学	5	1	1	2	3
マックマスター大学	2				1
ブリティッシュ・コロンビア大学	3	2	1	1	1
グローニンゲン大学	5			2	2
デルフト工科大学	5				
スウェーデン王立工科大学	5				
ミュンヘン工科大学	5				
ミュンヘンルートヴィヒ・マクスミリアン大学	2			2	2
アーヘン工科大学	5				
オーボアカデミー大学	5				1
グルノーブル大学連合	1				
ストラスブール大学連合(プログラム 8)	2				1
ストラスブール大学連合	3			1	
ビエール・マリー・キュリー大学	3				
ルーヴァンカトリック大学(UCL)	3				
スイス連邦工科大学ローザンヌ校	5				
ノッティンガム大学	1				
合 計	126	7	5	25	20

大学名(部局間協定校)	派遣内定人数
ヴェクショール大学	3
ブリティッシュ・コロンビア大学ソーダー・経済学部	2
フィリピン大学	1
カンタベリー大学	1
合 計	7

Ⅶ. 学生支援

留学生センター留学生交流指導部門は、吹田地区は留学生交流情報室（IRIS）、豊中地区は留学生センター豊中分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイス担当教員との密接な連携のもと、学生支援を継続的に行っている。学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。また定期的に発行する IRIS レター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、大阪大学留学生会（OUIA: Osaka University International Student Association）やB. S. P. (Brothers and Sisters Program) 等、学生間の交流や活動への支援も継続して行っている。さらに、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、一般学生の海外留学支援も行っている。

1. 留学生支援

(1) 留学生センターにおける相談対応

吹田キャンパスにおいては留学生センター IRIS（留学生交流情報室）（IC ホール 2 階）を学期期間中平日 8:30-18:00 開室、豊中キャンパスにおいては留学生センター豊中分室（イ号館 1 階）を学期期間中平日 10:00-17:00 開室とし、アドバイス担当教員と生活相談員との緊密な連携のもと、各種情報提供や相談対応を継続して行った。表 1 に IRIS、表 2 に豊中分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携は勿論、関係部局との連携も行いながら、迅速な対応を行った。

(2) 新規来日留学生への支援

留学生センター所属の新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申し込み受付等を含め、来日前からコンタクトを行った。留学生来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、学生交流推進課や留学生センター日本語教育部門等と連携して企画実施し、スムーズな留学開始となるよう支援した。

来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整を行い、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期に出会う機会を設けた。

また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で、実施した。

更に、学生間の交流や支援の観点も含め、B.S.P. (Brothers and Sisters Program) の学生によるオリエンテーション初日の宿舎への出迎えやキャンパスツアー、大阪大学留学生会の紹介等を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学留学生センター留学生交流情報室「IRIS」の相談対応状況および来室・利用人数状況

項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	105	79	43	37	17	28	99	89	56	56	55	48	712
日本語	33	51	13	17	5	20	17	21	6	10	12	16	221
奨学金	6	5	6	2	0	4	4	3	3	3	1	5	42
保証人	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
住居保証人	1	0	4	1	0	0	3	1	6	1	5	4	26
医療	8	2	2	6	1	6	5	7	3	4	2	4	50
入管関係	11	6	4	6	1	7	6	7	6	4	5	8	71
家族について	2	3	0	3	2	4	2	3	1	2	3	2	27
就職	7	5	6	3	0	3	2	5	4	3	0	4	42
住居	6	12	0	8	7	7	6	8	7	11	9	11	92
各種情報提供	267	235	152	113	48	163	279	240	162	144	108	85	1996
生活用品	99	16	15	6	2	17	25	20	10	11	19	11	251
学習・研究	13	3	7	3	8	7	7	6	5	6	4	4	73
事故・トラブル	4	3	4	6	0	0	0	2	4	2	3	0	28
引越	2	1	0	3	1	1	3	1	1	2	3	3	21
アルバイト	8	7	7	5	3	10	5	6	8	8	9	3	79
ホストファミリー	73	19	6	7	0	16	40	20	3	2	5	0	191
ホームステイ	2	2	8	6	2	1	1	0	1	1	2	0	26
海外留学相談	7	12	9	10	1	8	17	9	8	3	3	4	91
問い合わせ(学外)	99	79	85	86	27	88	127	118	85	95	84	55	1028
その他	0	6	5	4	0	0	2	0	0	0	0	0	17
計	754	547	376	332	125	390	650	566	379	368	332	268	5087

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ(電話・メールも含め)を示す。

来室者推移

年度	H15	H16	H17	H18
件数	16450	17848	17996	18025

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	1776	1654	1675	1409	688	821	1818	1610	1599	1389	999	809	16247
日本人学生	122	70	75	79	27	59	110	90	69	62	40	52	855
その他・一般	129	56	52	95	70	76	85	72	80	77	62	69	923
合計	2027	1780	1802	1583	785	956	2013	1772	1748	1528	1101	930	18025

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連(小・中・高校の教師)、ボランティアなどである。

表2 大阪大学留学生センター豊中分室の相談対応状況および来室・利用人数状況)

項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	54	15	6	11	0	16	3	6	0	5	4	4	124
日本語	48	8	10	8	0	9	14	1	0	3	2	5	108
奨学金	13	11	5	0	8	2	4	1	2	3	1	6	56
保証人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
住居保証人	2	1	1	1	0	2	1	5	1	1	7	1	23
医療	7	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	17
入管関係	1	0	1	0	3	0	1	0	0	3	4	3	16
家族について	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	4
就職	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	7
住居	8	9	2	7	13	10	9	15	4	13	20	21	131
各種情報提供	53	48	70	13	9	6	16	10	5	9	6	5	250
生活用品	7	0	8	3	1	1	0	0	2	0	0	4	26
学習・研究	1	35	28	8	4	4	6	7	1	3	1	6	104
事故・トラブル	4	3	3	0	1	0	0	7	0	0	0	1	19
引越	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
アルバイト	0	2	1	3	0	0	3	4	0	0	0	3	16
ホストファミリー	72	11	0	5	4	23	9	18	4	1	6	15	168
ホームステイ	3	2	0	8	1	3	3	3	0	0	1	0	24
海外留学相談	18	29	34	6	3	6	28	10	4	5	4	3	150
問合わせ(学外)	5	7	9	0	2	0	1	2	2	1	0	4	33
その他	6	8	21	2	0	1	2	4	3	11	6	9	73
合計	305	194	204	75	52	83	100	94	28	60	62	95	1352

相談対応件数推移

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
件数	909	2053	2607	3056	2843	2294	1352

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ(電話・メールも含め)を示す。

来室者推移

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
件数	1276	2362	4533	5379	8258	10028	9575	8320	7524	5183

豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	483	474	417	338	94	105	290	300	175	158	90	100	3024
日本人学生	157	198	119	81	26	27	104	93	129	70	44	51	1099
教官・学外など	200	137	100	94	40	32	82	116	72	64	60	63	1060
合計	840	809	636	513	160	164	476	509	376	292	194	214	5183

*ここでいう「利用」は豊中分室に来室した延べ人数を示す。

(3) 学生交流支援

学生支援については B.S.P. (Brothers and Sisters Program) や大阪大学留学生会 (OUIA) の活動の支援を引き続き行った。表 3 に B.S.P. の活動、表 4 に大阪大学留学生会の活動を記す。

表3 平成18年度B.S.P. 主な活動内容

<定例ミーティング>

*吹田B.S.P

4月～12月 毎週水曜日お昼休み

1月～ 3月 不定期

*豊中B.S.P

不定期

<主な活動内容>

月	日	内容	共催団体
4	3	豊中キャンパスツアー	
4	7	留学生出迎え、各種手続き同行、新留学生オリエンテーションで BSP の紹介、吹田キャンパスツアー	
4	7	お花見	
4	11	留学生出迎え、豊中キャンパスツアー	
4	21	ウエルカムパーティー	留学生会
5	9	ウエルカムパーティー(豊中)	留学生会
5	24	焼肉パーティー	
5	26	WWW パーティー	留学生会、生協留学生チーム、Σ 留学生会
6	2	タイ料理パーティー	
6	7	インドネシアジャワ島義援金活動(吹田)	留学生会、インドネシア留学生会
6	8	インドネシアジャワ島義援金活動(豊中)	留学生会、インドネシア留学生会
7	7	七夕パーティー	留学生会
7	26	トルコ料理パーティー	
8	1	いろいろおめでとうパーティー(豊中)	
8	10	送別会(吹田)	
9	25	吹田キャンパスツアー	
9	26	留学生出迎え、各種手続き同行	
9	27	豊中キャンパスツアー	
10	10	留学生出迎え、各種手続き同行、吹田キャンパスツアー	
10	11	留学生のためのバザー、新留学生オリエンテーションで BSP の紹介	留学生センター、ホストファミリーグループ アミーゴ
10	12	豊中キャンパスツアー	
10	20	ウエルカムパーティー	留学生会
11	24	吹田 BSP 懇親会・鍋パーティー	
12	2	イヤーエンドパーティー	留学生センター、ホストファミリーグループ アミーゴ
12	22	忘年会(吹田)	
12	26	大掃除&年越しそば	
1	17	書初め&お雑煮	
1	24	エジプト料理	
1	30	お餅パーティー(豊中)	
2	9	おしるこパーティー(豊中)	
2	9	節分パーティー 豆まき&巻き寿司丸かぶり	
3	24	送別会(吹田)	

表4 平成18年度大阪大学留学生会（OUISA）主な活動

月	日	内容	場所	共催団体、内容他
4	7	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
4	11	役員会(1)	吹田キャンパス	
4	19	留学生会総会	吹田キャンパス	
4	21	ウエルカムパーティー	吹田キャンパス	吹田 BSP
4	27	役員会(2)	吹田キャンパス	
5	26	WWW パーティー	豊中キャンパス	豊中 BSP、生協留学生チーム、 Σ 留学生会
5	13/14	合宿	京都	
6	6	役員会(3)	吹田キャンパス	
6	7	インドネシア地震募金活動	吹田キャンパス	吹田 BSP、インドネシア留学生会
6	8	インドネシア地震募金活動	豊中キャンパス	豊中 BSP、インドネシア留学生会
6	9	インドネシア地震募金活動	阪急北千里駅	インドネシア留学生会
6	30	インドネシア地震募金活動	JR 吹田駅	インドネシア留学生会
7	4	役員会(4)	吹田キャンパス	
7	7	Only in my country ポスターコンテスト &七夕まつり	吹田キャンパス	吹田 BSP
7	25	天神祭り船渡御参加		代表1名参加
9	5	役員会(5)	吹田キャンパス	
9	25	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
10	3	役員会(6)	吹田キャンパス	
10	11	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
10	10	役員会(7)	吹田キャンパス	
10	20	ウエルカムパーティー	吹田キャンパス	吹田 BSP
10	31	役員会(8)	吹田キャンパス	
11	4	大阪大学留学生会スポーツ大会・懇親会	吹田キャンパス	
11	21	役員会(9)	吹田キャンパス	
12	14	留学生向け就職活動支援セミナー「理系」	吹田キャンパス	
1	22	大阪大学地域団体ボランティア留学生支援 連絡協議会	吹田キャンパス	パネルディスカッション 代表2名参加
1	23	役員会(10)	吹田キャンパス	
1	26	スリランカカレーパーティー	吹田キャンパス	
2	13	役員会(11)	吹田キャンパス	
3	27	役員会(12)	吹田キャンパス	

(4) 学内連携

留学生センターは学内の部局の留学生関係者との連携も引き続き実施した。部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。平成18年7月28日の留学生センター連絡・交換会においては、このフロントスタッフネットワークから、留学生支援に関して昨年度提案し、その後実現の方向へと動いた項目について進捗状況を尋ねるとともに、新たな提案を行った。（1. 留学生基金、2. 国費留学生の資格外活動許可の改正、3. 非正規生のIDカード、5. 阪大における勉学・研究環境の改善）。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

留学生センターは地域との連携も引き続き行った。ホストファミリープログラムについては大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。またホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を引き続き緊密に取った。表5に平成18年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数を載せた。また第15回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を19年1月22日に実施し、千里ロータリークラブ稲呂清也大阪大学名誉教授による講演「留学生座談会『日本の社会に望むこと』」を主催して、引き続き、パネルディスカッション「日本の社会に望むこと-II」を稲呂教授および留学生5名にて行った。この講演、パネルディスカッション、その後の懇談を通して、大阪大学と地域の関係者及び関係者間のネットワークと連携を引き続き行った。当日は学内34名、学外143名、合計177名の出席者を得た。

表5 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組み合わせ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	計
ホストファミリーグループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	10	125
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	130
(財)とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	215
(財)箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	129
池田ホームステイ友の会	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	125
(財)吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	168
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	17	139
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	9	56
留学生さとおやの会*2												5	8	13
OHP/IRIS に直接登録	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	116
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	1216

*1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組み合わせは平成14年10月開始

*2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組み合わせは平成17年4月開始

(2) 国際理解教育への協力

また、地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表6に平成18年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数を載せた。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しつつ、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出し、希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行うとともに、実施後、報告書提出を行うというプロセスを経て、きめ細かな対応をしてきた。さらに平成18年度も大阪府教育委員会に協力して、教員の初任者研修—社会体験プログラムに協力した。留学生センターにおいてこのプログラムを7月25-26日に実施し、講義や留学生とのディスカッション等を行った。このプログラムには6名の新任教員が参加した。

表6 平成18年度「国際理解教育」協力状況

月	日	市	学校/プログラム名	派遣人数	派遣国
7	4	大阪市立	中大江小学校	1	ドイツ
7	12	大阪府立	刀根山養護学校	1	カナダ
7	29		東大谷高等学校	3	インドネシア・マレーシア・スリランカ
9	28	大阪府立	刀根山高等学校	7	インドネシア・シンガポール・ハンガリー・エジプト・トルコ・パキスタン・ブラジル
10	17	大阪府立	刀根山養護学校	1	イラン
10	25	大阪府立	北淀高等学校	10	韓国・ブラジル・中国・スウェーデン
11	2	豊中市立	第十七中学校	2	韓国
11	7	茨木市立	穂積小学校	5	スリランカ・シンガポール・ケニア・中国
11	10	伊丹市立	昆陽里小学校	2	フィリピン・ケニア
11	13	枚方市立	楠葉中学校	4	トルコ・インドネシア・タイ・ブルガリア
11	15	枚方市立	第四中学校	6	香港・エジプト・ブルガリア・キューバ・ベルギー・パキスタン
11	16	茨木市立	白川小学校	6	インドネシア・トルコ・ハンガリー・韓国・中国
11	17		大阪夕陽丘学園高等学校	2	シンガポール
11	23		摂陵中学校・高等学校	7	オランダ・インドネシア・エジプト・香港・ブルガリア
11	29	高槻市立	柳川小学校	2	韓国・カザフスタン
12	1	茨木市立	郡小学校	3	中国・ハンガリー・マレーシア
12	7	吹田市立	藤白台小学校	4	台湾・インドネシア・韓国
12	13	茨木市立	東小学校	13	ミャンマー・パナマ・中国・ベルギー・ペルー・インドネシア・韓国・フィリピン・オランダ
12	13	伊丹市立	昆陽里小学校	3	インドネシア・スリランカ・マレーシア
1	11	豊中市立	西丘小学校	1	スリランカ
1	19	摂津市立	第三中学校	8	中国・スリランカ・インドネシア・モンゴル・オランダ・韓国・ブラジル・マレーシア
1	19	茨木市立	玉櫛小学校	4	インドネシア・中国・ミャンマー・ロシア
1	20	大阪府立	茨木高等学校	3	ベトナム・インドネシア・スリランカ
1	24	摂津市立	千里丘小学校	10	スリランカ・ロシア・マレーシア・ブラジル・トルコ・ベトナム
1	25	豊中市立	熊野田小学校	2	中国・スリランカ
2	9	摂津市立	味舌小学校	5	中国・台湾・ロシア・タイ
2	13	豊中市立	東豊台小学校	5	中国・インドネシア・モンゴル・マレーシア
2	14	大阪府立	茨木西高等学校	6	スリランカ・マレーシア・中国・ロシア・インドネシア
2	28	豊中市立	野畑小学校	3	中国・ベトナム・インドネシア
3	9	豊中市立	克明小学校	1	インドネシア

合計:30校/130人

VIII. その他の活動

1. FD

留学生センターは大学教育実践センターと協力して、両センター及び部局の教員 9 名による「大学の国際化推進のための FD ワークショップー教育の国際標準を学ぶー」実施委員会を構成し、一連の FD 関連企画を実施した。平成 18 年度はこの FD 実施委員会と工学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ先導的教育研究融合プログラムが主催し、留学生センターと大学教育実践センターも共催した。これらの FD 企画実施について平成 19 年 3 月に報告書を発行した。

- 2006 年 11 月 6 日（月）ー11 月 9 日（木）

FD ワークショップ

「平成 18 年度 教育の国際化推進のための FD ワークショップー学習者中心のアプローチを学ぶー」

参加者数 10 名

- 2006 年 11 月 10 日（月）午前 9 時ー12 時

FD 特別ワークショップ

参加者数 7 名

- 2006 年 11 月 10 日（金）午後 2 時ー5 時

FD セミナー

「平成 18 年度教育の国際化のための FD セミナーー学生とのインターアクティブな講義を目指してー」

参加者数 46 名

2. 各種行事

- ・ 2006 年 7 月 28 日 平成 18 年度留学生センター連絡交換会
於： コンベンションセンター 会議室 2
- ・ 2006 年 9 月 1 日 大阪大学ホストファミリープログラム連絡協議会
参加者： 23 名
- ・ 2007 年 1 月 19 日 第 28 回大阪大学留学生教育・支援協議会
平成 18 年度第 2 回国立大学法人留学生センター指導研究協議会
於： 千里朝日阪急ビル 14 階 第 2 会議室
学内参加者： 26 名、 学外からの参加者： 50 名、 合計： 76 名
- ・ 2007 年 1 月 22 日 第 15 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
於： 銀杏会館 3 階ホール
学内参加者： 34 名、 ボランティア等学外参加者： 131 名、 合計： 165 名
- ・ 2007 年 3 月 1 日 大阪大学ホストファミリープログラム連絡協議会
参加者： 21 名

3. 研修事業

- ・ 2006 年 7 月 25 日ー 7 月 26 日
大阪府教育委員会初任者研修ー社会体験プログラム
研修生： 6 名

4. 海外出張・海外研修

○ 海外出張

- ・ 2006年5月12日－13日 村岡貴子教授、韓国のソウルに出張
大阪大学理工系学部に進学予定の第7期日韓共同理工系学部留学生5名との面談、慶熙大学校国際教育院の院長および関係講師との情報交換のため
- ・ 2006年5月23日－5月27日 有川友子助教授、カナダモントリオールに出張
NAFSA : Association of International Educatorsに参加するため
- ・ 2006年5月22日－27日 近藤佐知彦助教授、カナダ・モントリオールに出張
NAFSA コンフェレンス出席および科学研究（平成16・17年度基盤研究(A)(2) 大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究）に関するWS発表のため
- ・ 2006年6月9日－6月16日 有川友子助教授、イギリスシェフィールドへ出張
International Consortium for Educational Development (ICED) にて共同での口頭発表のため
- ・ 2006年8月4日－9日 三牧陽子教授、米国ニューヨークに出張
International Conference on Japanese Language Education (2006ICJLE ; 日本語教育国際研究大会) 口頭発表のため
- ・ 2006年8月20日－9月3日 西村謙一助教授、フィリピンのマニラ首都圏ケソン市およびラ・ウニオン州に出張
文部科学省科学研究費補助金「フィリピンにおける地方政府のガバナンス」に関する現地調査のため
- ・ 2006年9月7日－11日 西村謙一助教授、韓国のソウルに出張
日本留学フェアおよび日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアに参加のため
- ・ 2006年10月15日－18日 三牧陽子教授、村岡貴子教授、タイのバンコクに出張
大阪大学バンコク教育研究センター開所記念セミナーセッションF「大学における日本語教育の理念と実践」の担当のため
- ・ 2006年11月24日－27日 大谷晋也助教授、ベトナムのハノイおよびホーチミンに出張
2006年度日本留学フェア・進学説明会参加のため
- ・ 2006年12月15日－18日 西口光一教授、台湾の台北に出張
2006年度日本語文学術研究会（台湾日本語文学会）特別講演のため
- ・ 2007年2月25日－3月4日 北浜榮子教授、英国のブリストル、ロンドンおよびアイルランドのダブリンに出張
Junior Cafe Scientifique, UK 副代表との会談および「サイエンス・コミュニケーション」にかかわる研究資料調査のため
- ・ 2007年3月3日－11日 近藤佐知彦助教授ヨーロッパ（イタリア・ボローニア、フランス・グルノーブル、スペイン・マドリッド）出張
協定校訪問およびECTS運用等、ボローニアプロセス調査のため
- ・ 2007年3月17日－3月23日 有川友子助教授、スウェーデンとフィンランドに出張
大阪大学の協定校（スウェーデン王立工科大学、オーボアカデミー大学）訪問のため
- ・ 2007年3月17日－30日 西村謙一助教授、フィリピンのカビテ州およびラ・ウニオン州に出張
文部科学省科学研究費補助金「フィリピンにおける地方政府のガバナンス」に関する現地調査のため

- ・ 2007年3月22日－24日 西口光一教授、台湾の台北に出張
銘傳大学 2007 国際学術シンポジウム「応用言語教育の理論と実践」（銘傳大学応用日語学系・台湾日本語教育学会共催）特別講演のため

○ 海外研修

- ・ 2006年8月12日－21日 近藤佐知彦助教授、カナダ・モントリオールで研修
2006年度文科省海外先進教育実践支援プロジェクト「英語で開講する授業の国際水準化支援事業－短期留学プログラムの授業を手本にして国際的教育能力の向上を目指す－」に関連して、マギル大学における調査および研修のため
- ・ 2006年8月20日－8月27日 有川友子助教授、米国サクラメントへ出張
カリフォルニア州立大学サクラメント校でのFD研修に参加するため
(代表校：電気通信大学「平成18年度大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）」の「英語で開講する授業の国際水準化支援事業」に参加)

5. 出版物・印刷物等（2005年5月から2006年5月まで）

留学生センター関係の出版物リスト（平成18年度）

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発行年月
1	留学生日本語プログラム履修ガイド 2007 年度 Guide to Japanese Language Program 2007	2007 年 3 月
2	大阪大学留学生センター NEWS LETTER 第 12 号	2006 年 3 月
3	OUSSEP2007-2008 CALENDAR	2007 年 1 月
4	OUSSEP2007-2008 SYLLABUS	2007 年 1 月
5	大阪大学留学生センター研究論集多文化社会と留学生交流 第 11 号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.11	2007 年 3 月
6	2006 年度大阪大学留学生センター年報	2007 年 3 月

6. 研究者・配偶者の日本語学習支援

○ いちよう日本語プログラム

留学生センターでは、平成16年度より、外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者などで日本語学習を必要とする方々を対象に「いちよう日本語プログラム」を実施している。昨年度までは入門から中級までの3クラスと漢字クラスを合わせた計4クラスを開設していたが、中級参加者は生活日本語という観点からは日本語学習の緊急性が必ずしも高くないこと、また漢字クラスは市民ボランティア主導による漢字テーブル（次に紹介）によって概ねその機能を引き継ぐことができることから、本年度は日本語学習の緊急性の高い入門クラス（Aクラス）と初級クラス（Bクラス）のみを開設することとした。いずれのクラスも学期中24回の授業を実施し、参加者には一定の費用負担をお願いしている。本プログラムは、日本語学習の機会を提供するとともに、外国人生活者として相互に情報交換をする場

としての機能も果たしている。

・ クラスと担当者

Aクラス（入門） 八木真奈美 水3・木3〔吹田〕

Bクラス（初級） 新庄あいみ 水3／齊藤美穂 木3〔吹田〕

・ コーディネータ（WGメンバー） ◎西口光一、三牧陽子、有川友子、近藤佐知彦

・ 参加者数

いちよう日本語 18 年度参加者数

春学期

	研究者	配偶者	合計
Aクラス	8	5	13
Bクラス	8	3	11

秋学期

	研究者	配偶者	その他	合計
Aクラス	4	7	0	11
Bクラス	11	2	1	14

○ 漢字テーブル

平成 17 年度までは、いちよう日本語プログラムの漢字クラスにおいて、講師による漢字の指導と市民ボランティアの参加による個別学習を組み合わせた学習機会の提供を行ってきた。しかしながら財政面での運営の安定化と、より多くの大阪大学構成員への学習機会の提供の観点から、18 年度からは、ボランティアグループと協力して、市民ボランティア参加による漢字学習と市民との交流の機会を提供している。これが漢字テーブルである。

漢字テーブルは、留学生センターとの連絡・調整の下で、ボランティアグループ「竹の子にほんご交流会」が主催する自主的な活動である。「竹の子にほんご交流会」は、それまで漢字クラス等に参加していた市民ボランティアを中心に組織されたグループである。平成 17 年 11 月よりそうした市民ボランティアの主要メンバーと留学生センターいちよう日本語担当教員が月に 1 回の「準備委員会」を開いて、会則の作成、運営組織の検討、入会申込書の準備等、ボランティアグループ立ち上げの準備を進めた。そして、平成 18 年 3 月 8 日の設立総会をもって「竹の子にほんご交流会」は設立した。漢字テーブルは、同グループの主催の形で、平成 18 年 5 月よりスタートした。

- ・ 期 間： 春学期 平成 18 年 5 月 10 日（水）－8 月 2 日（水）
秋学期 平成 18 年 11 月 1 日（水）－平成 19 年 2 月 6 日（水）
- ・ 曜日と時間： 上記期間中の毎週水曜日 2 時 40 分－4 時 10 分
- ・ 場 所： 留学生センター 第 5・6 教室

漢字テーブルの参加者は主としていちよう日本語プログラムに参加している外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も一部参加している。平均的な参加人数は、学習者約 20 名、市民ボランティア約 20 名である。参加者はボランティアとペアになって漢字学習を進め、その途上で気楽に自由に日本語で話をするすることで、漢字学習と市民との交流の機会として重要な機能を果たしている。

7. 大阪大学専門日本語教育研究協議会

留学生センターでは従来より学生の専門的な研究に対応しうる日本語能力を養成することを目指して日本語教育を実践している。本年は、初めて、全学的に専門日本語教育のあり方について協議・検討するために以下のような要領で専門日本語教育研究協議会を開催した。内容紹介を含めて、記述する。

2007年3月13日(火) 13:00～17:50

留学生センター主催「大阪大学専門日本語教育研究協議会」

場所：吹田キャンパス IC ホール留学生センター2階 Room 5&6

参加者：27名

研究協議会の趣旨、次第および要旨は、次の通り。

大阪大学専門日本語教育研究協議会 「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」

主催 大阪大学留学生センター

趣 旨

大阪大学留学生センターは、学内共同教育研究施設として留学生教育や国際交流に関する種々の機能を担っています。その一環として、同センターは、発足当時から、多様な専門や母語等の背景をもった多数の留学生に対する日本語教育を実施してきました。現在も、多様化する留学生のニーズや学習スタイルに応じて、柔軟なカリキュラム編成を行い、また、常に、大学教育にふさわしい、学習・研究活動に有効な *Japanese for Academic Purposes* としての専門日本語教育を提供するべく研究を重ねております。

現在大阪大学に在籍している大学院レベルの留学生の多くは、日本という研究生活の環境において、目標言語である日本語を第二言語として学び、それをを用いて日々アカデミックなコミュニケーションの場面で人間関係を構築し、研究活動を行い、プレゼンテーションや論文で成果を発表することによって、留学の目的を達成しようと努力しています。このように、日本で第二言語として言葉を学び、大学のコミュニティを中心とした言語生活を送っている留学生を対象とした日本語教育は、単に、日本語教育学を専門とする一部の教員のみによって一方的に行われるだけでは十分とは言えません。各専門分野の先生方や大学院生をはじめとする関係者の方々と留学生センターの教員が、言語教育や留学生教育の視点を共有し、教育や学習支援について可能な限りの共通理解を目指すことが必要であり、それは留学生のための環境整備として非常に重要であると考えられます。留学生が専門分野において自律的に学習・研究活動を行い、所期の目的を達成できるよう、また、同時に、日本人学生との研究活動を通じた有意義な交流が促進されるよう、あらゆる関係者の緩やかな連携システムの構築、および、教育・研究資源の蓄積が求められます。

この度開催予定の「大阪大学専門日本語教育研究協議会」は、そういった大阪大学の大学院レベルの留学生に対する最近の日本語教育について、理念と実践の両面からご報告します。また、各部局において留学生を受入れていらっしゃる先生方とともに、大学院レベルを中心とした専門日本語教育とは何かについて、率直な意見交換を行う機会にしたいと考えております。

次第および要旨

司会 留学生センター 義永美央子

13:00-13:05 挨拶

留学生センター副センター長 三牧 陽子

13:05-13:25 専門日本語教育という視座

留学生センター 村岡 貴子

要旨: 大学教育に適したアカデミックな目的のための日本語教育である専門日本語教育の特徴等について説明し、かつ、専門日本語を用いたコミュニケーションについて、大阪大学の理系留学生の例をもとに報告した。また、今後も留学生センターと専門分野の教員や関係者との連携が必要であると論じた。

13:25-14:25 研究生活に必要な日本語とその実態－留学生指導教員として－

留学生と日本人大学院生とのコミュニケーション

医学系研究科 松浦 成昭

要旨: 当研究室における外国人留学生と日本人学生とのコミュニケーションについて報告した。この3年間に3人の外国人留学生（中国、スウェーデン、イラク）が学んでいるが、研究室のメンバーと良好な関係が構築されている。外国人留学生は日本人学生と互いに刺激し合い、向上する結果を生み出していると考えられた。外国人留学生の存在は日本人学生の英語能力の向上に寄与するのみならず、留学生の生活の援助を行うことによるボランティア活動の理解・修得、さらに外国文化の認識・理解が進み、最終的には自国文化の理解が深まるという種々の教育上の好影響を与えていた。留学生にとって日本での生活には日本語の修得が必須であるが、短期間で基礎能力の教育を担当している留学生センターの寄与は大変大きいと評価できる。留学生センターと連携することにより、今後積極的に外国人留学生を受け入れ、教育的効果を追求していきたい。

研究遂行と成果発表のための日本語

工学研究科 吉村 英祐

要旨: 留学生にとって日本語習得は大きな壁であるが、留学生のモチベーションを高めなければ日本語習得はできない。教員やチューターは留学生の心理・立場・留学目的を十分に理解し、個性に合った的確かつ懇切な指導を通して信頼関係を築くことが重要である。日本に留学してきてよかった、その先生についてよかったと思って帰国してもらうことが、留学生本人のみならず、大阪大学ひいては日本の国際的地位向上につながる。

議論および論文作成のための日本語運用能力

言語文化研究科 金崎 春幸

要旨: 言語文化研究科における留学生数や出身国等を紹介した後、留学生が研究をして論文を完成させるまでの問題点について指摘した。言語文化研究科の留学生は、日常のコミュニケーションのレベルではあま

り問題がないが、専門知識や専門書の理解力、議論を展開していく力量が不足していることなどを指摘し、今後の留学生に対する指導のあり方についての展望を述べた。

コメンテーター 留学生センター 西口 光一

《休憩 14:25-14:40》

14:40-14:55 留学生の研究活動における使用言語 —留学生指導教員へのアンケート調査から—

留学生センター 村岡 貴子・大谷 晋也・西村 謙一

要旨: 第20期から25期までの留学生指導教員102名(文系22名、理系80名)に対して実施したアンケート調査の結果を報告した。留学生の研究活動にかかわる場面、および日本人関係者の属性により、また漢字系・非漢字系という母語の背景によっても、使用言語の選択が異なることが明らかとなった。

14:55-15:50 全体討論

司会 留学生センター 大谷 晋也

要旨: 留学生の研究活動を支える専門日本語教育のあり方について、使用言語、指導教員等関係者の意識、あるいは教育環境整備のための方策等、種々の観点から情報交換と議論を行った。その結果、留学生の所属する各研究科の教員と留学生センター教員との連携の重要性が改めて認識された。

15:50-16:10 専門日本語教育の理念に基づいた「留学生日本語プログラム」のカリキュラム

留学生センター副センター長 三牧 陽子

要旨: 大阪大学の留学生の日本語学習ニーズを的確に把握するために実施した学内調査(2002年)の結果を紹介した上で、「留学生日本語プログラム」は、「アカデミックなニーズ」を反映した「専門日本語」科目群と、「第2言語としてのニーズ」を反映した「一般日本語」科目群とで構成されていることを示した。

16:10-16:25 新オンライン日本語レベル診断システム(デモンストレーション)

留学生センター 難波 康治

要旨: 2007年4月から、留学生日本語プログラムにおいて、従来の日本語プレースメントテストに代わり、新たに開始するオンライン日本語レベル診断システムについて、デモンストレーションを実施した。

16:25-16:30 挨拶

留学生センター長 古城 紀雄

16:35-17:50 懇親会(於 同階 IRIS)

(以上 敬称略)

IX. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 大学院 (3) 留学生日本語プログラム (4) 国際交流科目
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生 (4) 短期留学特別プログラム
(5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) 日本語・日本文化研修生
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金 7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演会 11. 報道 12. その他

※ 50 音順。7 の (1) 論文と (3) 口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野 教育人類学、異文化間教育学
2. 授業担当
 - (1) 共通教育
 - 春学期
多文化コミュニケーションI-2/II-2、同セミナーB
 - 秋学期
多文化コミュニケーションI-6/II-6、同セミナーF
 - (2) 大学院
 - 春学期
生涯教育学特定演習 I (共同)
 - 秋学期
生涯教育学特定演習 II (共同)
人間と文化特講 (共同)
 - (4) 国際交流科目
 - 春学期
Approaches to Understanding Cultures
3. 学生指導
 - ・ 留学生の相談対応
 - ・ 海外留学についての相談対応
5. 学内運営
 - ・ 国際交流委員会交換留学選考委員会委員
 - ・ 国際交流推進本部留学生・研究者受入サービスシステム検討WGメンバー
 - ・ 国際交流推進本部短期留学受入・派遣推進WGメンバー
 - ・ 学生生活委員会委員
 - ・ 人権問題委員会委員

- ・ 人権問題委員会民族問題小委員会委員長
- ・ セクシュアル・ハラスメント相談室全学相談員
- ・ 留学生センター人権・セクシュアルハラスメント対策委員会委員
- ・ 大学の国際化推進のためのFD実施委員会委員

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 有川友子、「留学生教育研究を語る－留学生として、教員として、研究者として－」、『異文化間教育』第24号、41－48、2006年6月、学術論文、特定課題研究
- ・ 『平成18年度教育の国際化のためのFD報告書』、2007年3月、主催：平成18年度教育の国際化のためのFD実施委員会・工学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ先導的教育研究融合プログラム、共催：大阪大学大学教育実践センター・留学生センター、報告、無

(3) 口頭発表

- ・ Berthiaume, D. & Arikawa T. (2006), “Addressing cultural dimensions of international academic development endeavours,” Presented at the biennial meeting of the International Consortium for Educational Development (ICED), Sheffield, United Kingdom: June 2006.

9. 会議運営

- ・ 大阪大学留学生教育・支援協議会、運営、大阪大学留学生センター、2007年1月
- ・ 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学留学生センター、2007年1月

12. その他

- ・ 工学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ先導的教育研究融合プログラム主催「イニシアティブFDワークショップ マイクロティーチング」講師、2007年3月7－8日

1. 専門分野 応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

日本語 I-1/II-1

○ 秋学期

日本語 I-4/II-4

(2) 大学院

○ 春学期

言語文化教育論A

○ 秋学期

言語文化教育論B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語研修コースAクラス

漢字と語彙 JK101

○ 秋学期

日本語研修コースAクラス

漢字と語彙 JK101

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3 (うち留学生は2)

(2) 博士前期課程 3 (うち留学生は1)

(3) 日本語研修生 26

5. 学内運営

- ・ 情報化推進連絡会
- ・ ODINS・CERT運用部会
- ・ 英文HP管理ワーキング

6. 外部資金

- ・ 科学研究費補助金萌芽研究 課題番号：17652053 平成17年度～平成19年度「外国人に対する医療支援に関するエスノグラフィー調査およびリソース開発」、研究代表者
- ・ 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：16520327 平成16年度～平成18年度「ニューカマーの子どもと日本社会との相互適応プログラムの開発研究」(研究代表者：山田 泉)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「「医療通訳」の現状と課題 ——医療サポート団体の調査から——」、大谷晋也・埋橋淑子・内藤(都築)裕美・楠木理香、応募、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第10号、大阪大学留学生センター、2006年3月、研究ノート、無
- ・ 「中学校英語教科書に見られる価値観 ——「夢の実現」を迫られる学習者たち」、仲 潔・大谷晋也、招待、『言語と文化の展望』、英宝社、津田葵先生記念論文集編集委員会、2007年3月、無

(3) 口頭発表

- ・ 「医療現場で使われる日本語の改善に向けて ～問診票理解の面接調査より～」、内藤裕美・楠木理香・スミス山下朋子・埋橋淑子・大谷晋也、応募、日本国際保健医療学会西日本地方会、2007年3月、有

8. 学外運営

- ・ 国・地方公共団体、大阪市不就学外国人児童生徒支援事業委員会（座長）、大阪市教育委員会、2005年7月
- ・ その他、日本文学データベース研究会（代表世話人）、1996年12月
- ・ その他、西日本国語国文学データベース研究会（世話人）、1992年10月

1. 専門分野 教育の国際化、科学教育、科学コミュニケーション、高分子固体構造論

2. 授業担当

(1) 共通教育

日本語 I-3/II-3

日本語 I-6/II-6

多文化コミュニケーション I-1/II-1

多文化コミュニケーションセミナーA-サイエンスコミュニケーション-

(3) 留学生日本語プログラム

理系専門日本語総合JT504 (春学期)

理系専門日本語総合JT504 (秋学期)

(4) 国際交流科目

Current Scientific and Engineering Topics -Technical Japanese A: Part I-

(最近の科学・技術の話題-科学技術日本語 I-)

Technical Communication for Understanding Scientific and Technological Issues -Technical Japanese A: Part II-

(科学・技術の話題を理解するためのテクニカル・コミュニケーション-科学技術日本語 II-)

3. 学生指導

・ 大阪大学短期留学特別プログラム 25 (春学期)

・ 大阪大学短期留学特別プログラム 37 (秋学期)

5. 学内運営

・ 大阪大学大学院工学研究科、担当、1997年4月

・ 大阪大学総合学術博物館、兼任、2002年4月

・ 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、兼任、2005年4月

・ 国際交流委員会、委員、2004年7月

6. 外部資金

・ OUSSEP科学技術日本語プログラム (企画：北浜榮子)、学外ツアーにかかる諸費用負担協力、財団法人社会経済生産性本部『フォーラム・エネルギーを考える』

7. 研究業績

(1) 論文

・ 「留学交流における多様性の価値(I) -大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの10年-」、北浜榮子、招待、『生産と技術』、第58巻、第2号、2006年4月、学術論文

・ 「社会文化としての科学コミュニケーション活動の研究-英国王立研究所のクリスマス・レクチャーに学ぶ-」、北浜榮子、応募、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』、第11号、73-82、2007年3月、学術論文

8. 学外運営

・ 事業委託、文部科学省、女子中高生理系進路選択支援事業、2006年10月

・ 企画運営担当、宝塚市、宝塚市民カレッジ、2006年6月

・ 事業担当幹事、専門日本語教育学会、専門日本語教育学会、2005年4月

・ 理事長、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2004年12月

- ・ 客員研究員、広島大学留学生センター、2002年4月

9. 会議運営

- ・ 2007年度専門日本語教育学会第9回研究討論会、同実施委員会委員・事業担当、専門日本語教育学会、2006年3月10日、九州大学で開催
- ・ 文部科学省女子中高生理系進路選択支援事業「女子高校生春の学校—ジュニア科学塾2007 in 関西」（主催：文部科学省、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、男女共同参画学協会、後援：神戸大学発達科学部、近畿2府3県教育委員会、宝塚市、宝塚市教育委員会、大阪大学大学院工学研究科、大阪大学大学教育実践センター、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）、主催団体理事長、特定非営利活動法人・科学と市民社会のコミュニケーション、2007年3月21日－22日、神戸大学発達科学部および兵庫県高等学校野外活動センターあさぎり寮で開催
- ・ 宝塚市民カレッジ2006「身のまわりの科学入門コース」8回講座、企画運営、特定非営利活動法人・科学と市民社会のコミュニケーション（宝塚市と共催）、第1回2006年6月18日、第2回2006年7月9日、第3回2006年8月20日、第4回2006年9月17日、第5回2006年10月15日、第7回2006年12月17日、第8回2007年1月21日、宝塚市西公民館で開催。第6回2006年11月19日、宝塚市立手塚治虫記念館で開催
- ・ OUSSEPイベント「My Country, My University」、コーディネーター、大阪大学留学生センター短期留学担当、2006年10月
- ・ 国際交流科目秋学期授業担当教員向けオリエンテーション、司会・世話人、大阪大学留学生センター短期留学担当、2006年10月
- ・ 国際交流科目春学期授業担当教員向けオリエンテーション、司会・世話人、大阪大学留学生センター短期留学担当、2006年4月

10. 講演会

- ・ 宝塚市民カレッジ2006「身のまわりの科学入門コース」、「科学がおもしろくなる話」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション（共催：宝塚市）、2006年6月18日、宝塚市西公民館で講演
- ・ 宝塚市民カレッジ2006「身のまわりの科学入門コース」、「暮らし・社会と科学の関係」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション（共催：宝塚市）、2007年1月21日、宝塚市西公民館で講演
- ・ 関西原子力懇談会創立50周年記念シンポジウム、パネルディスカッション「原子力カルネサンスの花は開くか」、関西原子力懇談会、2006年11月7日、大阪商工会議所国際会議ホールで講演
- ・ 文部科学省女子中高生理系進路選択支援事業「女子高校生春の学校—ジュニア科学塾2007 in 関西」、「ジュニア・サイエンスカフェ運営の理論と実践」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2007年3月21日－22日、神戸大学発達科学部および兵庫県高等学校野外活動センターあさぎり寮で講演

11. 報道

- ・ 朝日新聞、2006年10月30日、「大学Weekly: 理工系、女性もめざして、文科省の委託事業、中・高に教員ら派遣」、北浜榮子

12. その他

- ・ 印刷物編集、『OUSSEP2007-2008 Calendar』、北浜榮子・近藤佐知彦、大阪大学国際交流委員会、2006年11月
- ・ 印刷物編集、『OUSSEP2007-2008 Syllabus』、北浜榮子・近藤佐知彦、大阪大学国際交流委員会、2006年11月

- ・ 印刷物編集、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第11号、北浜榮子（紀要担当・編集長）、大阪大学留学生センター広報出版委員会、2006年9月
- ・ ホームページ作成、OUSSEPウェブサイト、北浜榮子、大阪大学留学生センター短期留学担当、1997年4月
- ・ サーバ管理・メールリングリスト運営、OUSSEPメールリングリスト、北浜榮子、大阪大学留学生センター短期留学担当、1997年4月
- ・ 学外施設見学ツアー企画・実施、(株) トヨタ自動車高岡工場およびトヨタ会館、OUSSEP科学技術日本語プログラム、2006年6月
- ・ 学外施設見学ツアー企画・実施、大阪市環境事業局舞洲工場および大阪市都市環境局舞洲スラッジセンター、OUSSEP科学技術日本語プログラム、2006年5月
- ・ OUSSEP親睦旅行企画・実施、吉備方面、大阪大学短期留学特別プログラム2006-2007、2006年10月
- ・ OUSSEP研修旅行企画・実施、高野山方面、大阪大学短期留学特別プログラム2005-2006、2006年7月

1. 専門分野 社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(2) 大学院

○ 春学期

人間と文化特講

人間と文化特別演習Ⅰ

○ 秋学期

人間と文化特別演習Ⅱ

(4) 国際交流科目

○ 春学期

日本の社会とイデオロギー

○ 秋学期

日本のメディアとコミュニケーション

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム 春学期25名； 秋学期37名

5. 学内運営

- ・ 短期留学運営部会
- ・ 交換留学奨学金等選考委員会
- ・ 受け入れサービス検討WG、GCN担当副座長

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 『英語で開講する授業の国際水準化支援事業（中間報告）』、近藤佐知彦、共著、文部科学省平成18年度大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）；補助事業者・電気通信大学、2006年12月、実践報告、無
- ・ 『英語で開講する授業の国際水準化支援事業（最終報告）』、近藤佐知彦、共著、文部科学省平成18年度大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）；補助事業者・電気通信大学、2007年3月、実践報告、無
- ・ 『大学における留学生・研究者のためのオンラインコミュニティ——GCN（Global Campus Net）Osakaの運営現状と課題——』、近藤佐知彦、応募、共著 『多文化社会と留学生交流』第11号、65-71、学術論文、無

(3) 口頭発表

- ・ Effective Institutional Review and Performance Indicator for Assessments of Internationalization、近藤佐知彦他、応募、58回NAFSAコンフェレンス、モントリオール、NAFSA、5月、有
- ・ 平成18年度大学教育の国際化推進プログラム、ポスターセッション、近藤佐知彦他、招待、文科省、パシフィコ横浜、11月、無
- ・ 『マギル大学報告』、近藤佐知彦、招待、英語で開講する授業の国際水準化支援事業（中間報告会）、電気通信大学、12月、無

10. 講演会

- ・ 国際化のためのオンラインコミュニティ、GCNについて、日本学生支援機構関西、2006年9月13日

12. その他

- ・ GCN事務局
- ・ 8月モンリオール、マギル大学で「大学教育の国際化推進プログラム」の一環として、FDプログラム受講した。

1. 専門分野 日本語教育学、社会言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

日本語 I-7

日本語595A

○ 秋学期

日本語 I-8

日本語595B

多文化コミュニケーション I-5/ II-5

(2) 大学院

○ 春学期

応用言語学特論 A

○ 秋学期

応用言語学特論 B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

専門読解ワークショップ（非漢字系）JR401/501（日本語I-7と合同）

日本語専門会話JC500

○ 秋学期

専門読解ワークショップ（非漢字系）JR401/501（日本語I-8と合同）

(4) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語JA400-2

○ 秋学期

総合日本語JA300-2

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 4（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程 3（うち留学生は1）

5. 学内運営

- ・ 教育情報化ワーキンググループ
- ・ 学務情報化特命プロジェクト

6. 外部資金

- ・ 平成18年度教育研究等重点経費

12. その他

- ・ 留学生センターウェブサイト管理運営
- ・ 留学生日本語プログラムWEBプレースメントテスト及びWEB履修登録システム開発

1. 専門分野 日本語教育学、認知心理学、記号論

2. 授業担当

(2) 大学院

○ 春学期

応用言語学特論A

言語文化教育論特別研究A

○ 秋学期

応用言語学特論B

言語文化教育論特別研究B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

専門読解ワークショップ（文系）JR303/403

漢字と語彙（漢字系）JK252-1

○ 秋学期

専門読解ワークショップ（文系）JR255

漢字と語彙（非漢字系）JK251-1

(4) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語JA400-2

総合日本語JA400-3

○ 秋学期

総合日本語JA300-1

総合日本語JA300-3

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生は2）

(2) 博士前期課程 3

(3) 博士論文指導 1

(4) 短期留学特別プログラム 4（OUSSEP-AJLs）

(6) 日本語・日本文化研修生 5

4. 教育（学外）

・ 立命館大学言語情報教育研究科 日本語教育学Ⅶ（集中講義）

・ 京都外国語大学 外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ（集中講義）

5. 学内運営

・ 評価委員会

・ 国際交流委員会

・ 吹田地区施設マネジメント委員会

・ OUSSEP検討WG

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「言語的思考と外国語の学習と発達」、西口光一、招待、『ヴィゴツキー学』第7巻（ヴィゴツキー学協会）、27-33、学術論文、無
- ・ 「共生を育む地域日本語活動に向けて」、西口光一・新庄あいみ・服部圭子、招待、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」報告書第6巻『言語の接触と混交』、59-97、2007年1月、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」、学術論文、無
- ・ 「接触場面の相互行為のダイアロジカルな分析のために」、西口光一、461-471、『言語と文化の展望』、英宝社、津田葵先生記念論文集編集委員会、2007年3月、学術論文、無
- ・ 「地域日本語活動に参加する市民ボランティアの意識—大阪府下で活動するグループを例として」、新庄あいみ・西口光一、応募、『多文化社会と留学生交流』第11号、57-64、2007年3月、実践報告、無

(2) 著書

- ・ 『日本語おしゃべりのたね』、西口光一監修・沢田幸子他著、スリーエーネットワーク、2006年7月、教科書、単著

8. 学外運営

- ・ 国・地方公共団体、大阪府識字・日本語教材作成委員会委員（座長）、大阪府教育委員会、2005年4月
- ・ 国・地方公共団体、大阪市国連識字の10年推進会議専門家委員会委員、大阪市教育委員会、2005年4月
- ・ その他、日本語教育学校支援事業委員、（特活）関西国際交流団体協議会、2005年4月
- ・ その他、北摂「かいしゃとちいきとがっこうでつくるにほんご」実行委員会委員、（財）とよなか国際交流協会、2006年4月
- ・ 学会、日本語教育学会理事、（社）日本語教育学会、2002年7月

10. 講演会

- ・ 大阪府識字日本語教育担当者会議、「市民による識字・日本語の活動と支援」、大阪府教育委員会、2006年11月2日（木）
- ・ 2006年度日本語文学術研究会特別講演、「学習活動と教師の役割—教室の内と外」、台湾日本語文学会、2006年12月16日
- ・ 人材育成セミナー、「多言語社会と日本語習得支援」、（財）京都市国際交流協会・（社）国際日本語普及協会、2007年2月3日
- ・ 国際教育学会第4回研究大会特別講演、「日本語の習得と習得支援」、愛知教育大学国際教育学会、2007年2月17日
- ・ 銘傳大学2007国際学術シンポジウム「応用言語教育の理論と実践」特別講演、「語りの協働構築とことば行為」、銘傳大学応用日語学系・台湾日本語教育学会、2007年3月23日

12. その他

- ・ 日本語・日本文化研修プログラム及びOUSSEPAJLsのコーディネーション担当（2006年10月より）
- ・ 識字・日本語教材『にほんご春夏秋冬 秋・冬編』の開発
大阪府識字・日本語教材作成委員会の今年度の成果として、識字・日本語教材『にほんご春夏秋冬 秋・冬編』を開発し、出版した。

1. 専門分野 比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(2) 大学院

○ 春学期

言語文化国際関係論A

○ 秋学期

言語文化国際関係論B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語研修コースCクラス

専門日本語プレゼンテーション（文系）JP303/403

○ 秋学期

日本語研修コースCクラス

専門日本語プレゼンテーション（文系）JP303/403

(4) 国際交流科目

○ 春学期

Technical Communication for Understanding Social and Cultural Issues - Technical Japanese B: Part II（社会・文化の話題を理解するためのテクニカル・コミュニケーションー社会科学日本語II）

○ 秋学期

Current Social and Cultural Topics - Technical Japanese B: Part I（最近の社会・文化の話題ー社会科学日本語I）

3. 学生指導

(2) 博士前期課程 2（留学生）

(3) 日本語研修生 18

(5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 5

4. 教育（学外）

- ・ 神戸海星女子学院大学 文学部国際英語メディア学科 国際協力論（前期）

5. 学内運営

- ・ 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）

6. 外部資金

- ・ 科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：17402010 平成17年度～平成20年度「フィリピンにおける地方政府のガバナンスー開発評議会の機能を中心に」、研究代表者

7. 研究業績

(3) 口頭発表

- ・ フィリピンにおける地方政府のガバナンスー市民参加の制度化は可能か、西村謙一、東アジア市民社会研究会、2006年5月
- ・ “People’s Participation in the Local Governance in the Philippines”, Kenichi Nishimura, The First Philippine Studies Conference of Japan, 2006年11月
- ・ 地方自治への市民参加の制度化は可能か？ーケソン市開発評議会の事例を中心に、西村謙一、「比

較のなかの東南アジア」研究会（東南アジア学会関西地区）、2006年11月

- ・ 地方行政への市民参加はどこまで可能かーフィリピン・カビテ州総合沿岸管理事業を中心に、西村謙一、東アジア市民社会研究会、2007年1月

8. 学外運営

- ・ 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員 （2006年8月1日～）

12. その他

- ・ 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーション及びホームルーム担当

1. 専門分野 材料物性デザイン工学、超塑性材料工学、留学生教育学

2. 授業担当

(2) 大学院

○ 秋学期

超塑性材料工学特論（工学研究科マテリアル生産科学専攻マテリアル科学コース）

3. 学生指導

- ・ 日韓共同理工系学部留学生予備教育プログラム（学生指導とホームルーム）

4. 教育（学外）

- ・ 大阪外国語大学大学院「国際交流研究」（春学期）
- ・ 富山大学工学部「超塑性材料工学」（集中講義）

5. 学内運営

- ・ 教育評議会メンバー
- ・ 国際交流推進本部員、同国際学生交流推進事業運営部会長
- ・ 国際交流委員会委員、同日韓理工系学部留学生事業WG座長、同学生海外研修派遣助成プログラムWG座長、同交換留学選考委員会委員、同OUSSEP検討WG、同国際学生交流推進事業検討委員会委員
- ・ 日仏共同博士課程日本コンソーシアム委員、同幹事会委員
- ・ 日加学生交流推進コンソーシアム委員、同幹事会委員
- ・ ルノー財団フランス留学推進コンソーシアム委員

6. 外部資金

- ・ 平成18年度留学生地域交流事業（財団法人中島記念国際交流財団）助成金
- ・ 財団法人軽金属奨学会研究助成金
- ・ 留学生センター留学生交流指導部門活動助成金
- ・ 財団法人吉田育英会国際交流助成金

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ A New Cross Rolling for Spreading of Thin Strips and its Application for Texture Control of Aluminum, *Advanced Technology of Plasticity*, Proceeding of The 8th International Conference on Technology of Plasticity Verona, Italy, (発刊2006) 国際会議論文、有
- ・ 兼子 毅, 宇都宮裕, 左海哲夫, 齋藤好弘, 古城紀雄, 「従動クロス圧延法による純アルミニウムの変形特性」塑性と加工, (2006-10)、vol.47 no.549 pp.937-942 学術論文 有

(2) 著書

- ・ 科学研究費補助金（平成16, 17年度）基盤研究（A）（2）研究成果報告者「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」（共著）
- ・ 京都大学国際交流センター外部評価書（共著）

(3) 口頭発表

- ・ 古城紀雄、芦沢真五、米澤彰純、大佐古紀雄、鶴田洋子「大学国際化の評価指標の研究（国際比較と指標策定）」第9回日本高等教育学会 2006年6月3日

8. 学外運営

- ・ 学会 専門日本語教育学会会長

- ・ 学会 軽金属学会理事、同総務委員長、同評議員、同関西支部長、
- ・ 学会 金属学会・鉄鋼協会関西支部理事、
- ・ 学会 国立大学留学生指導研究協議会監査委員
- ・ 学会 日本伸銅協会「銅及び銅合金技術研究会」理事
- ・ 国 文部科学省国費留学生の選考にかかる調査協力者会議委員、同日韓共同理工系学部留学生事業部会部会長
- ・ 国 超塑性特性試験法にかかる国際規格（ISO）委員会国際専門委員
- ・ 国 文部科学省長期留学生派遣制度自然科学分野選考委員会主査
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構「留学交流」編集協力者会議委員、同短期留学実施委員会委員
- ・ 府 大阪府「留学生支援のあり方」研究会委員
- ・ 社団法人日本鉄鋼協会関西支部評議員
- ・ 財団法人軽金属奨学会理事
- ・ 財団法人ナインティナインアジア留学生奨学基金選考委員
- ・ 財団法人吹田市国際交流協会理事
- ・ 財団法人吉田育英会評議員
- ・ 公益信託松田與三七記念留学生奨学基金運営委員
- ・ 大阪地域留学生等交流推進協議会専門委員会委員長、同企画委員会委員長、同国際理解教育支援ワーキング座長、

10. 講演会

- ・ 平成18年度留学生担当者研修会（日本学生支援機構主催）講演会講師「留学生担当者に期待されること―留学生に関する危機管理を考えつつ―」2006年10月18日 於：国立オリンピック記念青少年総合センター

12. その他

- ・ 国立大学留学生指導研究協議会、2006年1月13日
- ・ 大阪大学地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、2006年1月22日

三 牧 陽 子

1. 専門分野 日本語教育学 社会言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

日本語I-2/II-2

(2) 大学院

○ 春学期

言語技術特殊研究A

言語コミュニケーション論特別研究A

○ 秋学期

言語技術特殊研究B

言語コミュニケーション論特別研究B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

専門会話 JC300/JC400-1

専門会話 JC300/JC400-2

○ 秋学期

専門会話 JC300/JC400-1

専門会話 JC300/JC400-2

(4) 国際交流科目

○ 秋学期

総合日本語JA400-1

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 4

(2) 博士前期課程 4 (うち留学生は1)

5. 学内運営

- ・ 大学教育実践センター兼任教員 (共通教育実践部国際教育部門)
- ・ 大学教育実践センターカリキュラム委員会委員
- ・ 大学教育実践センターカリキュラム企画委員会委員
- ・ 大学教育実践センター既習得科目認定審査委員会委員
- ・ 大学教育実践センター連絡会議委員

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「大学における日本語教育の理念と実践 -大阪大学バンコク教育研究センター開所記念セミナー報告-」、三牧陽子・村岡貴子、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第11号、2007年、無

(3) 口頭発表

- ・ 「日本語学習者のスピーチレベル管理」、三牧陽子、日本語教育国際研究大会 (2006ICJLE)、コロンビア大学 USA、応募、2006年8月、有

- ・ 「大阪大学における日本語教育の理念と実践」、三牧陽子、大阪大学バンコク教育研究センター開所記念セミナー「大学における日本語教育の理念と実践」、タイ・バンコク、2006年10月

8. 学外運営

- ・ 学会、日本語教育学会評議員、(社)日本語教育学会、2002年～
- ・ 協議会、国立大学日本語教育研究協議会理事、2001年～

12. その他

- ・ 「豊中市立小学校英語（外国語）体験活動」審査委員会委員、2006年7月
- ・ 日本語教育学会『日本語教育』査読協力者
- ・ 社会言語科学会『社会言語科学』査読協力者
- ・ 国際交流基金『世界の日本語教育』査読協力者

1. 専門分野 日本語教育学、日本語文体論、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(2) 大学院

○ 春学期

言語技術特殊研究A

言語コミュニケーション論A

○ 秋学期

言語技術特殊研究B

言語コミュニケーション論B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語研修コースBクラス J I 200

専門日本語文法・読解 J G 300/400

専門日本語作文 J W 300-1

専門日本語作文 J W 300-2

○ 秋学期

日本語研修コースBクラス J I 200

専門日本語文法・読解 J G 300/400

専門日本語作文 J W 300-1

専門日本語作文 J W 300-2

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5 (うち留学生は1)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は1)

(3) 日本語研修生 14

(5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 5

5. 学内運営

・ 教育課程委員会

・ 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG (日本語科目アドバイザー)

6. 外部資金

・ 科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 課題番号: 18300281 平成18年～21年度「理工系日本語学習者のためのe-learning統合学習支援システム開発と評価」(研究代表者: 仁科喜久子)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「理系日本語論文における緒言部と結論部との呼応的關係-専門日本語教育のための文章研究として-」、村岡貴子、『言外と言内の交流分野-小泉保博士傘寿記念論文集-』大学書林、2006年、学術論文、無
- ・ 「農学系日本語論文の考察部の論理展開分析-日本語論文作成支援を目ざして-」、村岡貴子、『言語と文化の展望』、英宝社、津田葵先生記念論文集編集委員会、2007年3月、学術論文、無
- ・ 「大学における日本語教育の理念と実践 -大阪大学バンコク教育研究センター開所記念セミナー

報告一」、三牧陽子・村岡貴子、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第11号、2007年、無

(3) 口頭発表

- ・ 「専門日本語教育という視座」村岡貴子、大阪大学バンコク教育研究センター開所記念セミナーセッションF「大学における日本語教育の理念と実践」、2006年、無
- ・ 「新聞の報道文の文章構造における日中対照研究ー中国人日本語学習者への作文指導のためにー」、劉偉・村岡貴子、専門日本語教育学会第9回研究討論会、応募、2007年3月、有

8. 学外運営

- ・ 学会、日本語教育学会、学会誌委員会委員、2005年7月～
- ・ 学会、専門日本語教育学会、庶務幹事、1999年3月～、会計幹事兼任、2004年3月～

12. その他

- ・ 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

1. 専門分野 日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

多文化コミュニケーション I-1/II-1

多文化コミュニケーションセミナーA (多文化コミュニケーション I-1/II-1と合同)

○ 秋学期

日本語 I-5/II-5

多文化コミュニケーション I-5/II-5

多文化コミュニケーションセミナーE (多文化コミュニケーション I-5/II-5と合同)

(2) 大学院

○ 秋学期

言語コミュニケーション論B

(3) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

専門日本語文法・読解JG500/550

○ 秋学期

専門日本語文法・読解JG500/550

(4) 国際交流科目

○ 春学期

日本語JC500

日本語JG500

○ 秋学期

日本語JA400-2

日本語JA400-3

4. 教育 (学外)

- ・ 愛知教育大学教育学部現代学芸課程日本語教育コース 総合演習Ⅱ (集中講義)

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「接触場面における他者開始修復とポライトネス」、義永美央子、応募、『多文化社会と留学生交流』第11号、1-14、2007年3月、学術論文、有
- ・ 「第二言語としての日本語話者の相互行為能力—接触場面会話のケーススタディから—」、義永美央子、『言語と文化の展望』、473-488、英宝社、津田葵先生記念論文集編集委員会、2007年3月、学術論文、無

(2) 著書

- ・ 『地球のうらからこんにちは—ブラジル人児童と日本人児童のための異文化理解ハンドブック』義永美央子、愛知教育大学出版会、2006年4月、教科書、編著

8. 学外運営

- ・ 学会、学会誌『日本語教育』査読協力者、(社) 日本語教育学会、2004年1月～現在

12. その他

- ・ 「参加型授業におけるグローバル・リテラシーの育成—異文化理解ハンドブックの作成活動を通して—」『グローバル・リテラシーの向上に関する研究』愛知教育大学プロジェクト経費に係る研究成果報告書 2006年5月
- ・ 「総合演習Ⅱにおける外国人児童のための算数教材の作成」『外国人児童生徒のための教材開発と学習支援』愛知教育大学・現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）報告書 2006年10月
- ・ 「沖縄『アメラジアンスクール』調査」『外国人児童生徒のための教材開発と学習支援』愛知教育大学・現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）報告書 2006年10月

資料1 留学生日本語プログラム2006年度 時間割

春学期・吹田キャンパス

■：専門日本語 □：一般日本語

	room	月		火		水		木		金	
		授 業	担 当	授 業	担 当	授 業	担 当	授 業	担 当	授 業	担 当
I 8:50 ~10:20	1	JI100 A755	堀橋	JI100 A755	堀橋	JI100 A755	東保	JI100 A755	ソニー	JI100 A755	大谷
	2	JI200 B755	福良	JI200 B755	山崎	JI200 B755	福良	JI200 B755	村岡	JP304 /JP404-1 専門日本語 プレゼンテーション(理系)	米田
	3	JI300 C755	東保	JI300 C755	西村	JI300 C755	藤澤			JP303 /JP403-1 専門日本語 プレゼンテーション(文系)	西村
	4	JA400-1 総合日本語	難波							JA400-3 総合日本語	西口
	5	JA200-1 総合日本語	スミス							JA200-3 総合日本語	スミス
	6	JA300-1 総合日本語	丸山					JC300 /JC400-1 専門会話	三牧		
II 10:30 ~12:00	1	JI100 A755	堀橋	JI100 A755	堀橋	JI100 A755	東保	JI100 A755	ソニー	JI100 A755	都築
	2	JI200 B755	福良	JI200 B755	山崎	JI200 B755	福良	JI200 B755	丸山	JP304 /JP404-2 専門日本語 プレゼンテーション(理系)	米田
	3	JI300 C755	東保	JG500/550 専門日本語 文法・読解	義永	JI300 C755	藤澤			JP303 /JP403-2 専門日本語 プレゼンテーション(文系)	西村
	6			JG300/JG400 専門日本語 文法・読解	村岡			JC300 /JC400-2 専門会話	三牧	JI200 B755	山崎
III 13:00 ~14:30	1	JI100 A755	大谷	JI100 A755	林			JI100 A755	ソニー	JI100 A755	都築
	2	JP200-1 専門日本語 プレゼンテーション基礎 (非漢字系)	スミス	JR201-1 専門読解基礎 (非漢字系)	山崎	JB200-2 総合日本語	福良	JI200 B755	丸山	JR201-2 専門読解基礎 (非漢字系)	スミス
	3	JW300-1 専門日本語 作文	村岡	JR202-1 専門読解基礎 (漢字系)	岡崎					JR202-2 専門読解基礎 (漢字系)	山崎
	4	JB200-1 総合日本語	福良								
	5			JR303/403 専門読解 ワークショップ(文系)	西口	JB100-1 総合日本語	藤澤	JB100-2 総合日本語	岡崎		
IV 14:40 ~16:10	6	JW400 /JW500-1 専門作文 (論文を書く) 漢字と語彙 (非漢字系)	米田							JR304/404 専門読解 ワークショップ(理系)	米田
	1	JK101-1 漢字と語彙 (非漢字系)	大谷	JK101-2 漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤			JK101-3 漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤	JK101-4 漢字と語彙 (非漢字系)	喜多
	2	JP200-2 専門日本語 プレゼンテーション基礎 作文	安田								
	3	JW300-2 専門日本語 作文	村岡	JK201-1 漢字と語彙 (非漢字系)	新庄					JK201-2 漢字と語彙 (非漢字系)	新庄
	5			JK252-1 漢字と語彙 (漢字系)	西口			JK211 漢字と語彙 (非漢字系)	布尾	JK252-2 漢字と語彙 (漢字系)	布尾
V 16:20~17:50	6	JW400 /JW500-2 専門作文 (論文を書く)	米田			英語補講	池田				
	5									JI504 /日本語1-3, 11-3 専門日本語総合 (理系)	北浜

春学期・豊中キャンパス

■：専門日本語 □：一般日本語

	月			火			水			木			金						
	授 業	担 当	教室	授 業	担 当	教室	授 業	担 当	教室	授 業	担 当	教室	授 業	担 当	教室				
I 8:50 ～10:20				JA200-2	総合日本語	岡崎	共A203					JA300-3	総合日本語	嶋津	共A311				
				JA300-2	総合日本語	嶋津	共A311	JB200-1	総合日本語	渡部	共A311								
				JA400-2	総合日本語	西口	共口205					JG500	専門日本語 文法・読解	義永	共A313				
II 10:30 ～12:00	英語補講	池田	サイバー メディア センター マルチメ ディアセ ミナー室	JP310	専門日本語 プレゼンテーション	嶋津	共A311	JC310	専門会話	渡部	共A311	JG300	専門日本語 文法・読解	埋橋	未定				
				JP410				JC410				JG400							
III 13:00 ～14:30				日本語 595A (文系)		難波	共A101												
				JP503	専門日本語 プレゼンテーション (文系)														
IV 14:40 ～16:10				JC500	専門会話	義永	サイバー メディア センター CALL第1	JB100-1	総合日本語	ソニー	共A311								
								JR501	専門読解 ワークショップ (非漢字系)	難波	サイバー メディア センター CALL第2								
								日本語 1-7, 11-7											
								日本語 1-2, 11-2		三牧	共B316								
V 16:20 ～17:50	多文化 コミュニケーション 1-1, 11-1	義永	共B306	日本語 1-1, 11-1		大谷	共B316	多文化 コミュニケーション 1-2, 11-2		有川	共B306	多文化 コミュニケーション 1-3, 11-3		北浜	共B316				
					専門作文	難波	サイバー メディア センター CALL第1												

□ : 専門日本語 □ : 一般日本語

		月		火		水		木		金	
	room	授 業	担 当	授 業	授 業	担 当	授 業	授 業	授 業	授 業	担 当
I	1	JI100	Aｸﾗｽ	堀橋	JI100	Aｸﾗｽ	堀橋	JI100	Aｸﾗｽ	東保	ソニー
	2	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	山崎	JI200	Bｸﾗｽ	福良	村岡
	3	JI300	Cｸﾗｽ	東保	JI300	Cｸﾗｽ	西村	JI300	Cｸﾗｽ	藤澤	
8:50 ～10:20	4	JA300-1	総合日本語	西口							西口
	5	JA100-1	総合日本語	スミス							スミス
II	6	JA200-1	総合日本語	丸山					JC300 /JC400-1	専門会話	三牧
	1	JI100	Aｸﾗｽ	堀橋	JI100	Aｸﾗｽ	堀橋	JI100	Aｸﾗｽ	東保	ソニー
	2	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	山崎	JI200	Bｸﾗｽ	福良	丸山
	3	JI300	Cｸﾗｽ	東保				JI300	Cｸﾗｽ	藤澤	
	5				JG300/ JG400	専門日本語 文法・読解	村岡				
10:30 ～12:00	6				JG500/ 550	専門日本語 文法・読解	義永		JC300 /JC400-2	専門会話	三牧
	1	JI100	Aｸﾗｽ	大谷	JI100	Aｸﾗｽ	林		JI100	Aｸﾗｽ	ソニー
III	2	JP200-1	専門日本語 プレゼンテーション基礎	安田	JR201-1	専門読解基礎 (非漢字系)	山崎	JB200-2	総合日本語	福良	丸山
	3				JR202-1	専門読解基礎 (漢字系)	岡崎	JB100-1	総合日本語	藤澤	岡崎
	4	JB200-1	総合日本語	福良							
13:00 ～14:30	5	JW300-1	専門日本語 作文	村岡	JR303/ 403	専門読解 ワークショップ(文系)	西口				
	6	JW400 /JW500-1	専門作文 (論文を書く)	米田	JR502 (共)	専門読解ワークショップ (漢字系/日本語98)	難波				
IV	1	JK101-1	漢字と語彙 (非漢字系)	大谷	JK101-2	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤		JK101-3	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤
	2	JP200-2	専門日本語 プレゼンテーション基礎	安田							
	3				JK201-1	漢字と語彙 (非漢字系)	新庄	英語補講			
14:40 ～16:10	5	JW300-2	専門日本語 作文	村岡	JK252-1	漢字と語彙 (漢字系)	西口		JK211	漢字と語彙 (非漢字系)	布尾
	6	JW400 /JW500-2	専門作文 (論文を書く)	米田							
V	3	JA400-1	総合日本語	三牧							
	5										
16:20 ～17:50									JT504 /日本語-6, 11-6	専門日本語総合 (理系)	北浜

秋学期・豊中キャンパス

□ : 専門日本語 □ : 一般日本語

月			火			水			木			金								
授	業	担当	授	業	担当	授	業	担当	授	業	担当	授	業	担当						
I 8:50 ～10:20			JA100-2	総合日本語	岡崎	共A 203						JA200-3	総合日本語	嶋津	共A 311					
			JA200-2	総合日本語	嶋津	共A 311	JB200-1	総合日本語	渡部	共A 311										
			JA300-2	総合日本語	難波	共B 206					JA400-2	総合日本語	義永	共A 313						
II 10:30 ～12:00	英語補講	池田	JW310	専門作文	嶋津	共A 311				JG300	専門日本語 文法・読解	埋橋	共A 311	JB100-2	総合日本語	ソニー	共A 311			
			JW410							JG400										
III 13:00 ～14:30												JB200-2			総合日本語	ソニー	共A 311			
IV 14:40 ～16:10									JB100-1	総合日本語	ソニー	共A 311								
									JR501	専門読解 ワークショップ (非漢字系)	難波	サイバー メディア センター CALL第2								
									日本語 1-8, 11-8		日本語 1-5, 11-5								日本語 1-5, 11-5	
V 16:20 ～17:50	多文化 コミュニケーション 1-4, 11-4	難波				日本語 1-4, 11-4			多文化 コミュニケーション 1-5, 11-5			多文化 コミュニケーション 1-6, 11-6			有川			共B206		

資料2 2006年度 留学生日本語プログラムおよび英語補講 履修登録者数一覧

2-1 春学期

(1) 部局別登録者数

	登録者数		身分別内訳					
			正規大学院生		研究生 (大学院・学部)		短期留学生 (大学院・学部)	
	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講
文学部・文学研究科	11	2	0	1	6	1	5	0
人間科学部・人間科学研究科	4	3	2	2	2	1	0	0
法学部・法学研究科	2	4	0	2	2	2	0	0
経済学部・経済学研究科	8	0	0	0	1	0	7	0
理学部・理学研究科	6	0	6	0	0	0	0	0
医学部・医学系研究科	8	2	4	1	3	1	1	0
歯学部・歯学研究科	5	0	5	0	0	0	0	0
薬学部・薬学研究科	2	2	2	2	0	0	0	0
工学部・工学研究科	44	4	28	3	10	1	6	0
基礎工学部・基礎工学研究科	13	0	10	0	1	0	2	0
言語文化研究科	1	3	1	3	0	0	0	0
国際公共政策研究科	3	1	1	0	1	1	1	0
情報科学研究科	2	2	0	2	1	0	1	0
生命機能研究科	3	0	2	0	1	0	0	0
産業科学研究所	2	0	0	0	2	0	0	0
核物理学研究センター	1	0	0	0	1	0	0	0
サイバーメディアセンター	3	0	0	0	0	0	3	0
留学生センター (日本語研修コース及びOUSSEP)	47	2	0	0	26	2	21	0
計	165	25	61	16	57	9	47	0

* 正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第3外国語科目（留学生センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

* 英語補講登録者のうち13名は日本語プログラムにも登録。

(2) 留学生日本語プログラム レベル別身分内訳

日本語レベル		登録者数	身分別内訳		
			正規大学院生	研究生 (大学院・学部)	短期留学生 (大学院・学部)
(未習)	100	35	10	17	8
	200	37	15	13	9
	300	32	19	3	10
	400	29	10	14	5
	500	21	5	7	9
(超上級レベル)	550	11	2	3	6
計		165	61	57	47

2-2 秋学期

(1) 部局別登録者数

	登録者数		身分別内訳					
			正規大学院生		研究生 (大学院・学部)		短期留学生 (大学院・学部)	
	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講	日本語 プログラム	英語補講
文学部・文学研究科	8	5	0	1	2	1	6	3
人間科学部・人間科学研究科	4	2	0	0	3	2	1	0
法学部・法学研究科	2	1	0	0	2	1	0	0
経済学部・経済学研究科	6	2	0	1	3	1	3	0
理学部・理学研究科	6	1	4	0	1	1	1	0
医学部・医学系研究科	10	3	6	3	4	0	0	0
歯学部・歯学研究科	1	0	1	0	0	0	0	0
薬学部・薬学研究科	3	0	2	0	1	0	0	0
工学部・工学研究科	30	3	16	1	11	1	3	1
基礎工学部・基礎工学研究科	9	1	4	1	5	0	0	0
言語文化研究科	1	2	0	2	0	0	1	0
国際公共政策研究科	4	1	0	0	4	0	0	1
情報科学研究科	5	0	2	0	3	0	0	0
生命機能研究科	4	0	3	0	1	0	0	0
微生物病研究所	0	1	0	0	0	1	0	0
産業科学研究所	3	0	0	0	3	0	0	0
社会経済研究所	1	1	0	0	1	1	0	0
核物理学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生センター（日本語研修コース、 OUSSEP、OUSSEP-AJLs、日本語・日本文 化研修コース生）	71	0	2	0	32	0	37	0
計	168	23	40	9	76	9	52	5

* 正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第3外国語科目（留学生センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

* 英語補講登録者23名のうち17名は日本語プログラムにも登録。

(2) 留学生日本語プログラム レベル別身分内訳

日本語レベル		登録者数	身分別内訳		
			正規大学院生	研究生 (大学院・学部)	短期留学生 (大学院・学部)
(未習)	100	45	8	21	16
	200	40	13	14	13
	300	27	11	11	5
	400	25	4	13	8
	500	18	3	11	4
(超上級レベル)	550	13	1	6	6
計		168	40	76	52

資料3 国際交流科目授業時間割

(平成18年春学期)

時限	時間	月	火	水	木	金
		吹田キャンパス	豊中キャンパス		豊中キャンパス	吹田キャンパス
I	8:50 10:20	日本語JA (200, 300, 400) 《留学生センター》	日本語JA (200, 300, 400) 《留学生センター》		日本語JA (300, 500) 《留学生センター》	日本語JA (200, 400) 《留学生センター》
		200: スミス 朋子(非) 300: 丸山 樹里(非) 400: 難波 康治 助教授	200: 岡崎 洋三(非) 300: 嶋津 百代(非) 400: 西口 光一 教授		300: 嶋津 百代(非) 500: 義永 美央子 助教授	200: スミス 朋子(非) 400: 西口 光一 教授
		ICホール2F 200: 講義室5 300: 講義室6 400: 講義室4	200: 共通教育 A203 300: 共通教育 A311 400: 共通教育 口205		300: 共通教育 A311 500: 共通教育 A313	ICホール2F 200: 講義室5 400: 講義室4
II	10:30 12:00	我が国の保健医療制度の概要 《医学部》	近代日本経済学 《経済学部》	自主研究 (A・B・C)	西洋文学・語学の比較研究 《文学部》	日本の社会とイデオロギー 《留学生センター》
		的場 梁次 教授	佐々木 勝 助教授		玉井 障 教授	近藤 佐知彦 助教授
		ICホール2F 留学生センター 講義室5	法経講義棟 4番		理学部 B212	ICホール2F 留学生センター 講義室5
III	13:00 14:30		科学・技術の話題を理解するためのテクニカル・コミュニケーション ー科学技術日本語Ⅱー 社会・文化の話題を理解するためのテクニカル・コミュニケーション ー社会科学日本語Ⅱー	実地見学	異文化理解へのアプローチ 《留学生センター》	物質化学入門 《工学部》
			科:北浜 榮子 教授 社:西村 謙一 助教授		有川 友子 助教授	桑畑 進 教授
			科:理学部 B208 社:理学部 B212		共通教育 B207	工学部化学系 G1-212
IV	14:40 16:10	地球総合工学への招待 《工学部》	日本語JA (500) 《留学生センター》		身のまわりの化学 《理学部》	
		山中 俊夫 助教授	500: 義永 美央子 助教授		村田 道雄 教授	
		工学部総合研究棟 U1W-618	豊中キャンパス サイバーCALL 第一教室		理学部 B212	
V	16:20 17:50		日本語JA (500) 《留学生センター》			
			500: 難波 康治 助教授			
			豊中キャンパス サイバーCALL 第一教室			

(注) 授業実施場所は、都合により変更する場合がある。

(平成18年秋学期)

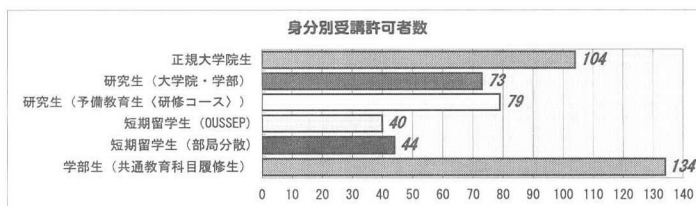
時限	時間	月	火	水	木	金
		吹田キャンパス	豊中キャンパス		豊中キャンパス	吹田キャンパス
I	8:50 10:20	日本語JA (100, 200, 300) 《留学生センター》	日本語JA (100, 200, 300) 《留学生センター》		日本語JA (200, 400) 《留学生センター》	日本語JA (100, 300, 400) 《留学生センター》
		100: スミス 朋子(非) 200: 丸山 樹里(非) 300: 西口 光一 教授	100: 岡崎 洋三(非) 200: 嶋津 百代(非) 300: 難波 康治 助教授		200: 嶋津 百代(非) 400: 義永 美央子 助教授	100: スミス 朋子(非) 300: 西口 光一 教授 400: 義永 美央子 助教授
		ICホール2F 100: 講義室5 200: 講義室6 300: 講義室4	100: 共通教育 A203 200: 共通教育 A311 300: 共通教育 B206		200: 共通教育 A311 400: 共通教育 A313	ICホール2F 100: 講義室5 300: 講義室4 400: 講義室6
II	10:30 12:00		現代物理学の最前線 《理学部》	自主研究 (A・B・C)	近代・現代日本文学 《言語文化部》	日本のメディアと コミュニケーション 《留学生センター》
			細谷 裕 教授		村上 スミス・アンドリュウ 助教授	近藤 佐知彦 助教授
			文法経研究講義棟 12番		文法経研究講義棟 12番	ICホール2F 留学生センター 講義室5
III	13:00 14:30	最近の社会・文化の話題 ー社会科学日本語1ー 《留学生センター》	マネジメント入門 《経済学部》	実地見学	最近の科学・技術の話題 ー科学技術日本語1ー 《留学生センター》	薬学入門 《薬学部》
		西村 謙一 助教授	関口 倫紀 助教授		北浜 榮子 教授	宇野 公之 教授
		ICホール2F 留学生センター 講義室5	文法経研究講義棟 31番		文法経研究講義棟 12番	ICホール2F 留学生センター 講義室5
IV	14:40 16:10	工学の基盤分野における 日本の革新技術 《工学部》	歴史・習俗・交流 ーアジアと日本ー 《文学部》		日本の法・政治制度と 法・政治文化 《法学部》	情報システム工学基礎論 《工学部》
		掛下 知行 教授	片山 剛 教授		瀬戸山 晃一 講師	尾上 孝雄 教授
		工学部材料系 R2-323	文法経研究講義棟 12番		文法経研究講義棟 22番	ICホール2F 留学生センター 講義室5
V	16:20 17:50	日本語JA (400) 《留学生センター》				
		三牧 陽子 教授				
		ICホール2F 留学生センター 講義室3				

(注) 授業実施場所は、都合により変更する場合がある。

資料4 日本語授業についてのアンケート

2006年度春学期 日本語授業についてのアンケート集計 Students' Evaluation of the Japanese Language Class

身分	(2006年春学期受講許可者数より)	のべ人数
(1)	正規大学院生	104
(2)	研究生 (大学院・学部)	73
(3)	研究生 (予備教育生〈研修コース〉)	79
(4)	短期留学生 (OUSSEP)	40
(5)	短期留学生 (部局分散)	44
(6)	学部生 (共通教育科目履修生)	134



* 延べ総受講許可者 474名の内、アンケート延べ回答者数 166名 (全体の35.0%)

A あなたの受講状況について (5: 高評価) 全科目平均値

(1)	あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	
	50%未満 50~70% 70~80% 80~90% 90%以上	
	1 2 3 4 5	4.2
(2)	あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。	
	全くそう思わない そう思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う	
	1 2 3 4 5	4.1
(3)	あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。	
	全くしない ~30分 ~60分 ~90分 90分以上	
	1 2 3 4 5	2.5
(4)	あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。	
	全くしない ~30分 ~60分 ~90分 90分以上	
	1 2 3 4 5	2.5
(5)	あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。	
	一度もしなかった 1回 2~3回 4~5回 6回以上	
	1 2 3 4 5	3.2
(6)	あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。	
	ぜんぜん ほとんど すこしだけ かなり とても	
	上達しなかった 上達しなかった 上達した 上達した 上達した	
	1 2 3 4 5	4.0

回答者数 計166名

B 授業への感想 (5: 高評価)

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(1)	この授業は体系的に構成されていた。	4.4
(2)	教師は十分な準備をしていた。	4.6
(3)	教師の説明はわかりやすかった。	4.6
(4)	教師は質問にいてねいに答えてくれた。	4.7
(5)	練習やアクティビティは役に立った。	4.3
(6)	クイズや課題・テストなどは適切だった。	4.3
(7)	宿題の量は適切だった。	4.2
(8)	指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。	4.4
(9)	この授業を受講してよかったと思う。	4.6

C 記述 → 省略

2006年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計 Students' Evaluation of the Japanese Language Class

延べアンケート回答者数 166名 / 延べ受講許可者数 474名・・・35.0%

各科目平均集計用 総回収数166

科目名		JA200 (集中)	JB200 (吹)	JK201 (吹)	JK211 (吹)	JK252 (吹)	JR201 (吹)	JR202 (吹)	JP200 (吹)	JB200 (量)	JA300 (吹)	JR303/ JR403 (吹)	JR304/ JR404 (吹)	JG300/ JG400 (吹)	JW300 (吹)	JC300/ JC400 (吹)	JP303/ JP403 (吹)	JP304/ JP404 (吹)	JG300/ JG400 (量)	JC310/ JC410 (量)	JP310/ JP410 (量)	JA400 (吹)	JW400/ JW500 (吹)	JG500/ JG550 (吹)	JA500/ JA550/ JA580 (量)	英語 補講 (吹)	英語 補講 (吹)	日本語 I・II	JA500/ JA550/ JA580 (量)	英語 補講 (吹)	英語 補講 (吹)	科目 平均値	
回数表		5	7	7	10	5	12	8	2	7	1	7	3	6	12	5	7	3	8	3	5	2	8	5	6	4	3	7	8				1.66
A.	(1)	3.0	3.6	4.3	5.0	4.2	4.4	3.9	5.0	4.1	2.0	3.4	4.3	4.5	4.6	5.0	4.4	5.0	4.8	4.7	4.4	4.5	3.6	4.6	4.2	4.8	4.3	3.3	3.4	4.2			4.2
	(2)	4.2	3.7	4.0	4.0	3.8	4.2	4.0	4.5	4.0	4.0	3.9	4.0	3.8	4.3	4.0	4.3	4.3	3.9	4.3	3.6	3.5	4.1	4.6	4.3	4.3	4.7	4.4	4.0	4.1			4.1
	(3)	1.8	2.1	2.4	2.0	2.0	2.3	2.0	2.5	2.4	2.0	2.0	1.0	2.0	2.4	2.8	2.0	3.0	4.1	2.3	2.2	3.0	2.3	4.0	2.0	2.5	3.0	2.4	3.1	2.5			2.5
	(4)	2.4	1.7	2.6	3.0	3.4	2.9	2.4	2.5	2.7	2.0	2.4	1.7	2.3	2.5	2.8	3.0	1.7	3.0	2.3	2.2	3.0	2.3	2.8	2.2	2.3	2.3	2.4	2.9	2.5			2.5
	(5)	2.8	3.1	2.9	3.0	3.0	2.7	3.3	3.5	3.9	3.0	3.1	4.3	3.2	2.6	3.8	3.3	4.3	2.9	3.3	3.0	4.0	2.8	4.2	3.0	2.8	3.3	2.9	3.3	3.2			3.2
	(6)	4.0	4.7	4.1	3.0	3.6	4.3	4.3	4.0	4.4	3.0	4.4	3.7	3.7	3.8	4.2	4.0	4.3	3.8	4.5	4.2	3.0	3.9	5.0	3.5	3.7	3.7	3.9	3.6	4.0			4.0
B.	(1)	4.2	4.6	4.7	5.0	4.2	4.5	4.6	4.5	4.3	4.0	3.9	3.7	4.0	4.8	4.2	4.6	4.7	4.3	4.5	4.4	3.0	4.3	5.0	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4			4.4
	(2)	4.6	4.9	5.0	5.0	4.4	4.5	4.8	5.0	4.9	5.0	4.0	5.0	4.0	4.8	4.0	4.6	4.7	4.9	5.0	4.6	3.5	4.4	5.0	4.8	4.7	5.0	4.6	4.3	4.6			4.6
	(3)	4.4	4.9	4.9	5.0	4.4	4.5	4.4	5.0	4.9	4.0	4.0	4.7	4.5	4.6	3.8	4.4	4.7	4.6	5.0	4.2	4.5	4.8	5.0	4.8	5.0	4.4	4.3	4.6			4.6	
	(4)	4.4	5.0	4.7	5.0	4.6	4.7	4.5	5.0	5.0	4.0	4.9	5.0	4.3	4.7	3.8	4.7	5.0	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	5.0	4.7	4.3	5.0	4.6	4.8	4.7			4.7
	(5)	4.4	3.9	4.4	5.0	4.0	4.3	4.5	5.0	4.4	4.0	4.0	3.5	4.3	4.5	4.0	4.3	4.3	4.6	4.5	4.4	3.5	3.8	4.8	4.5	4.0	4.7	4.4	4.3	4.3			4.3
	(6)	4.4	4.3	4.4	5.0	4.2	4.3	4.4	4.5	4.0	5.0	4.1	1.0	4.3	4.4	4.0	4.4	4.5	4.3	4.5	4.6	3.0	4.4	4.8	4.3	4.7	4.7	5.4	4.4	4.3			4.3
	(7)	4.0	4.3	4.3	5.0	3.6	4.3	4.4	4.5	3.9	4.0	3.6	2.0	4.3	4.5	4.0	4.1	4.5	4.1	4.5	4.8	3.0	3.8	4.2	4.5	4.3	4.7	5.2	4.4	4.2			4.2
	(8)	4.4	4.7	4.9	5.0	4.2	4.2	4.6	5.0	4.3	5.0	4.1	4.0	3.3	4.8	4.0	4.7	3.7	4.0	5.0	4.6	3.5	4.5	5.0	4.5	4.0	4.7	5.6	4.4	4.4			4.4
	(9)	4.6	4.9	4.7	5.0	4.6	4.5	4.5	5.0	4.7	4.0	4.4	4.3	4.2	4.8	4.4	4.7	4.7	4.8	5.0	4.4	4.0	4.3	5.0	4.5	4.3	4.7	4.9	4.6	4.6			4.6

未回収: JB100(吹), JK101(吹), JR501/日本語-7/吹, JP503/日本語55A(吹),
JS304/日本語-3/吹, 日本語-1/吹, 日本語-2/吹, 日本語-3/吹, 多文化1-1/吹, 多文化1-2/吹, 多文化1-3/吹, 多文化1-4/吹

質問内容

A あなたの受講状況について

- あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。
50%未満 50-70% 70-80% 80-90% 90%以上
1 2 3 4 5
- あなたは、この授業を意欲的に受講したと思いますか。
全くそう思わない そう思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
1 2 3 4 5
- あなたは、この授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。
全くしない -30分 -60分 -90分 90分以上
1 2 3 4 5
- あなたは、この授業の準備に、毎回どのくらい時間をかけましたか。
全くしない -30分 -60分 -90分 90分以上
1 2 3 4 5
- あなたは、この授業中(90分)にどのくらい自分から質問や発言をしましたか。
一度もしなかった 1回 2-3回 4-5回 6回以上
1 2 3 4 5
- あなたは、この授業を履修して、日本語が上進したと思いますか。
ほとんど上進しなかった 上進した 上進した 上進した
1 2 3 4 5

B 授業への感想

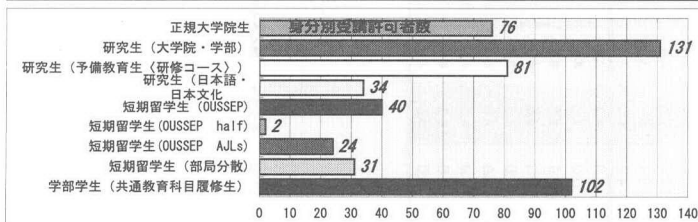
- 全くそう思わない そう思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
1 2 3 4 5

- (1) この授業は体系的に構成されていた。
- (2) 教師は十分な準備をしていた。
- (3) 教師の説明はわかりやすかった。
- (4) 教師は質問に丁寧に答えてくれた。
- (5) 練習やアクティビティは役に立った。
- (6) クイズや授業・テストなどは適切だった。
- (7) 宿題の量は適切だった。
- (8) 指定された資料や、配付されたプリントは役に立った。
- (9) この授業を受講してよかったと思う。

C 記述 → 省略

2006年度秋学期 日本語授業についてのアンケート集計 Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 (2006年秋学期受講許可者数より)	のべ人数
(1) 正規大学院生	76
(2) 研究生 (大学院・学部)	131
(3) 研究生 (予備教育生 (研修コース))	81
(4) 研究生 (日本語・日本文化 研修コース)	34
(5) 短期留学生 (OUSSEP)	40
(6) 短期留学生 (OUSSEP half)	2
(7) 短期留学生 (OUSSEP AJLs)	24
(8) 短期留学生 (部局分散)	31
(9) 学部学生 (共通教育科目履修生)	102



* 延べ総受講許可者 521名の内、アンケート延べ回答者数 194名 (全体の37.2%)

A あなたの受講状況について (5: 高評価) 全科目平均値

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	50%未満 1	50-70% 2	70-80% 3	80-90% 4	90%以上 5	4.2
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。	全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.3
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。	全くしない 1	〜30分 2	〜60分 3	〜90分 4	90分以上 5	2.5
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。	全くしない 1	〜30分 2	〜60分 3	〜90分 4	90分以上 5	2.6
(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。	一度もしなかった 1	1回 2	2-3回 3	4-5回 4	6回以上 5	3.2
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。	ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	4.0

回答者数 計194名

B 授業への感想 (5: 高評価)

	全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
(1) この授業は体系的に構成されていた。						4.4
(2) 教師は十分な準備をしていた。						4.7
(3) 教師の説明はわかりやすかった。						4.7
(4) 教師は質問にいてねいに答えてくれた。						4.7
(5) 練習やアクティビティは役に立った。						4.4
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。						4.4
(7) 宿題の量は適切だった。						4.4
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。						4.5
(9) この授業を受講してよかったと思う。						4.6

C 記述 → 省略

延べアンケート回答者数 194名 / 延べ受講許可者数 521名・・・37.2%

未回収 JA100(吹・巻)、JK101(吹)、JR501/日本語1-8/11-8(巻)、
多文化1-4/多文化11-4(巻)、多文化1-5/多文化11-5(巻)、多文化1-6(巻)、

A あなたの受贈状況について

- (6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。
- | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------------|---|---|---|---|---|
| ぜんぜん
上達しなかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほとんど
上達しなかった | | | | | |
| すこしだけ
上達した | | | | | |
| かなり
上達した | | | | | |
- とて 上達

田中 隆雄の政治小説研究

- | | | | | | |
|------------|---|---|---|---|---|
| 全くそう思わない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 全然そう思わない | | | | | |
| ほとんどそう思わない | | | | | |
| そう思わない | | | | | |
| どちらともいえない | | | | | |
| そう思う | | | | | |
| ほとんどそう思う | | | | | |
| 全然そう思う | | | | | |